

平成27年度事業報告書

1. 学校法人の概要

① 建学の精神

【建学の精神】

創立者高山紀齋の進取の気性、開拓精神によって本学は創立され、それを受け継いだ建学者血脇守之助は、学問のみならず歯科医学及び歯科医療における人本主義の教育理念を確立するために心血を注いだ。すなわち血脇は、自身が唱えた「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉に集約されるように、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性、国際性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成することの重要性を強調して、教育の原点ともいえる人本主義を掲げていたのである。

この考えは教育面での学生一人ひとりを大切にする指導理念となり、本学の建学の精神として、教育・研究・臨床のそれぞれの分野で120有余年の間、代々に引き継がれて現在に至っている。

【将来に向けてのビジョン】

人間性豊かな歯科医療人養成の社会的要請に応えるべく、建学の精神(理念)を継承しながら、これからの社会的なニーズの中で歯科大学としての使命を果たすために、高機能で先導性のある歯科大学を目指し、その環境において有為な人材育成を行う。その一環として平成22年に創立120周年を迎えたことを契機に、記念事業として建学の地、東京・水道橋にメインキャンパスを移し、二次計画として水道橋校舎の拡充をすすめる。また、グローバル化の流れに対応するべく、教育・研究・診療の各分野において国際交流を図る。

② 学校法人の沿革

明治23年	1月(1890)	高山紀齋芝区伊皿子町(現港区)に高山歯科医学院創立
明治32年	12月(1899)	高山紀齋 血脇守之助に学院の全てを委譲
明治33年	2月(1900)	高山歯科医学院を東京歯科医学院に改称、同時に神田小川町の東京顕微鏡院内に移転
明治34年	2月(1901)	東京歯科医学院の校舎を神田三崎町に移転
明治40年	9月(1907)	東京歯科医学専門学校設置認可
明治41年	9月(1908)	東京歯科医学専門学校附属病院開院
大正9年	3月(1920)	血脇守之助の寄付により財団法人認可
昭和4年	11月(1929)	水道橋校舎新築落成
昭和21年	7月(1946)	東京歯科大学(旧制)認可
昭和24年	9月(1949)	東京歯科大学歯科衛生士学校開校
昭和26年	9月(1951)	財団法人から学校法人への組織変更認可
昭和27年	2月(1952)	学校教育法により新制東京歯科大学となる
昭和30年	1月(1955)	東京歯科大学進学課程設置認可
昭和33年	3月(1958)	東京歯科大学 大学院歯学研究科(博士課程)の設置認可
昭和42年	2月(1967)	東京歯科大学市川病院、総合病院として認可
昭和51年	12月(1976)	東京歯科大学歯科衛生士学校は東京歯科大学歯科衛生士専門学校として認可
昭和56年	9月(1981)	東京歯科大学千葉校舎開校。東京歯科大学千葉病院開院、東京歯科大学病院を東京歯科大学水道橋病院に改称
昭和62年	4月(1987)	東京歯科大学市川病院を東京歯科大学市川総合病院に名称変更
平成元年	4月(1989)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校開校

平成 2 年 3 月 (1990)	水道橋校舎 (TDC ビル) 竣工、4 月 新水道橋病院開院
平成 8 年 10 月 (1996)	東京歯科大学口腔科学研究センター開所式開催
平成 12 年 1 月 (2000)	脳科学研究施設 (口腔科学研究センター) 開所
平成 13 年 7 月 (2001)	東京歯科大学市川総合病院角膜センター・アイバンクビル竣工
平成 14 年 3 月 (2002)	東京歯科大学市川総合病院リプロダクションセンター・放射線棟開所
平成 15 年 12 月 (2003)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校、修業年限・教育課程 3 年制移行承認
平成 17 年 10 月 (2005)	歯科医学教育開発センター開設
平成 18 年 4 月 (2006)	東京歯科大学口腔がんセンター開設
平成 24 年 2 月 (2012)	東京歯科大学さいかち坂校舎竣工
平成 24 年 4 月 (2012)	東京歯科大学さいかち坂校舎開校
平成 25 年 7 月 (2013)	東京歯科大学水道橋校舎新館竣工
平成 25 年 9 月 (2013)	東京歯科大学水道橋校舎新館開校
平成 28 年 3 月 (2016)	東京歯科大学水道橋校舎本館西棟竣工

③ 設置する学校・学部・学科等

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

理事長 水 野 嘉 夫		
設置する学校	学部・研究科等	設置認可年月
東京歯科大学	歯学部	昭和 27 年 2 月 20 日
〃	大学院歯学研究科	昭和 33 年 3 月 25 日
所在地 東京都千代田区三崎町 2-9-18		
学長 井 出 吉 信		
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	平成 元年 3 月 31 日
所在地 千葉県千葉市美浜区真砂 1-2-2		
校長 井 上 孝		

④ 役員及び教職員に関する情報

役員については、平成 28 年 3 月 31 日現在で理事 8 名、監事 2 名が現員であり、理事の中から常務理事が理事長を含めて 5 名選任されている。評議員については、同日現在で 38 名が現員であり、そのうち法人職員からの選出が 11 名（歯科衛生士専門学校長 1 名を含む）、本学卒業者からの選出が 17 名、学識経験者からが 10 名となっている。

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

		定員数	現員数
役 員	理 事	7 ～ 9 名	8 名
	監 事	2 名	2 名
	評 議 員	35 ～ 40 名	38 名

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

	法人本部	東京歯科大学	東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	合 計
教 員	—	303 名	6 名	309 名
職 員	6 名	※ 1, 039 名	1 名	1, 046 名

※ 1, 039 名のうち 613 名は附属病院の看護師である。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

① 主な事業の目的・計画

1. 大学の水道橋移転計画（二次計画）を遂行する。
2. 教育では、3つのポリシーに基づいたきめ細やかな教育を行い、卒業生の質の担保と優秀な学生の確保を図る。
3. 研究では、科研費を含む競争的資金の獲得や学外共同研究の充実を図り、口腔科学研究センターを研究拠点に総合的な研究に取り組む。
4. 病院では、3病院がそれぞれ最新の医療を提供すると同時に、地域医療への貢献に取組み、学生への診療参加型臨床実習の一層の充実を図る。

② 進捗状況

1. 大学の水道橋移転計画（二次計画）として、平成28年3月に東京歯科大学水道橋校舎本館西棟が竣工した。その他、水道橋校舎本館の改修工事として、防災センター改修工事、エントランス天井改修工事、昇降機改修工事を行った。
2. 第109回歯科医師国家試験（平成28年1月実施）において、全国29大学（国公立含む）中で合格率、合格者数ともに5年連続1位の成績を上げることができたことは、3つのポリシーに基づいたきめ細やかな教育の結果である。また受験生確保については、本学の教育内容を広くアピールすることにより、平成28年度入試においても多くの受験者数を確保することができた。授業料については、本学が提携した「学資ローン」の紹介や、「利子補給奨学金制度」、「特別奨学金制度」、「学費減免制度」の運用を引き続き行うことにより、学生・保護者への経済的支援強化に努めた。海外姉妹校の施設見学、学生交流等を行う「Elective Study」プログラムを推進した。従来から推進しているがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン、私立大学教育研究活性化設備整備事業、基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業（歯学教育認証制度部門）、私立大学等改革総合支援事業の遂行に加え、課題解決型高度医療人材養成プログラムを遂行した。
3. 研究面では、科研費を含む競争的資金の獲得や学外共同研究の充実を図り、私立大学等経常費補助金特別補助「大学間連携による共同研究」において、2つの研究テーマについて他大学・研究機関（慶應義塾大学・大阪大学・東京大学・（公財）癌研究会がん研究所、他）との共同研究を進め、口腔科学研究センターワークショップ（平成28年2月19日開催）においてその成果を発表した。
4. 病院では、3病院がそれぞれ最新の医療を提供すると同時に、地域医療への貢献に取組み、歯科医師臨床研修、学生への診療参加型臨床実習の一層の充実を図った。

水道橋病院では、高度で先進的な医療の提供や医学研究の推進を図り、社会・地域医療への貢献、患者さん本位の安心・安全な全人的医療の提供に努めた。より良質で高度な医療の提供を目指し、平成27年度完成の水道橋校舎本館西棟の2～4階が病院施設となった。大学病院として、豊かな人間性を持った優れた医療人の育成、地域の基幹病院として、地

域医療連携室を中心に従来の病診連携の拡大はもとより、総合病院等の医療機関との病・病連携の強化にも努めた。

平成 27 年度は、水道橋移転計画の途中であることから、内部・外部共に厳しい環境ではあったが、収支のバランスをできるだけ維持していくことを目標に医療収入の確保、経費の削減に努めた。医師・歯科医師を始め、病院スタッフの努力により、患者数は増加し、診療チェアの稼働率も上昇した。また、病院スタッフ全員が診療材料費等の削減に努め、コスト意識を持つことにより経費率を下げている。他方、医療安全の強化を図り安全・安心な医療を提供する体制を構築している。教育面においては、登院学生の臨床実習教育、臨床研修歯科医の教育等、診療参加型の臨床実習体制の充実を図っている。

市川総合病院では、救急指定病院として市川市の救急医療を担うだけでなく、「地域がん診療連携拠点病院」及び「災害拠点病院」の指定を受け、高いレベルで地域医療に貢献してきた。「地域がん診療連携拠点病院」指定基準については、診療実績、体制が評価され、平成 27 年度から 4 年間の更新指定を受けることができた。

更に、地域の病院・診療所・かかりつけ医との連携を強化して地域医療を支えていくために、平成 27 年度に「地域医療支援病院」指定への取組みを本格化し、主要な指定要件である紹介率・逆紹介率の向上等に病院一体となって注力した。その結果、承認要件をクリアし、平成 27 年度末に「地域医療支援病院」名称使用許可が承認された。今後、名実共に地域の中核病院であるとの自覚も新たに、「地域包括ケアシステム」の担い手として病院運営基盤の整備を図っていく。

また、地域高齢化に伴う医療ニーズ増加への対応のため、平成 27 年 1 月に内視鏡室の拡張、それに伴う検査室の移転および看護師宿舎の改修という一連の工事に着手していたが、診療・検査業務を継続しながら行う大掛かりな計画だったにもかかわらず、平成 27 年 10 月に予定どおり完工した。内視鏡室の業務効率が大幅に改善されると共に、看護師宿舎改修後に新設された「東京歯科大学スキルスラボ」には 12 の各種シミュレータが設置され、臨床実習学生、臨床研修医・歯科医、看護師等を対象とした血圧測定、経管栄養、採血・静注、嚥下内視鏡など、実践的実習に大いに活用されている。

なお、当年度は、病院の第三者評価を行う日本医療機能評価機構による病院機能評価の 5 年に一度の更新年に当たっており、平成 27 年 12 月に実地調査を受審した。当院での平時からの体制整備、診療プロセスの構築・改善等の取組みが奏功し、「質の高い医療が提供される病院である」と評価され、平成 28 年 4 月に更新認定される旨の内示を受けている。

千葉病院は、多様化する患者様のニーズに対応し、医療安全に努め、患者様中心の医療を推進するとともに、臨床研修病院としての機能も果たしている。地域に根付いた高次機能を持つ病院として適正な医療収入の確保・患者満足に努めるとともに、効率的な経費支出策を実行することにより、永続的な健全運営のための収支改善を図った。

(2) 教育研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

本学は、歯学部歯学科、大学院歯学研究科（博士課程）を設置している。また、歯科臨床実習及び臨床研究に関する附属施設として3つの附属病院を付設しているほか、歯科医学教育開発センター、口腔科学研究センター、口腔がんセンター、角膜センターを付設している。

大学等	学部・研究科等	学科	課程等
東京歯科大学	歯学部	歯学科	
	大学院歯学研究科		博士課程
東京歯科大学歯科衛生士専門学校		歯科衛生科	

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

(平成27年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	学科	教員数
東京歯科大学	歯学部	歯学科	303名
	大学院歯学研究科		160名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、博士（歯学）、博士（医学）、博士（薬学）、博士（学術）、博士（農学）、博士（理学）、博士（工学）、修士（医学）、修士（理学）、修士（英文学）、修士（文学）がある。 (平成27年5月1日現在)			
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科		6名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、学士（教養）、専門士（医療専門課程）がある。 (平成27年5月1日現在)			

③ 入学試験に関する情報

平成28年度入学試験における募集人員、入学志願者数、合格者数

＜東京歯科大学 歯学部＞

入試方式	募集人員	入学志願者数	合格者数 (追加合格を含む)
推薦入学選考	約45名	86名	61名
帰国子女・留学生特別選抜	若干名	8名	3名
一般入学試験（Ⅰ期）	約50名	363名	89名
センター利用試験（Ⅰ期）	13名	139名	25名
一般入学試験（Ⅱ期）	約15名	191名	11名
センター利用試験（Ⅱ期）	5名	16名	4名
学士等特別選抜A	若干名	10名	4名
学士等特別選抜B	若干名	8名	2名

編入学試験 A	若干名	18名	7名
編入学試験 B	若干名	14名	4名

＜東京歯科大学 大学院歯学研究科＞

入試方式	募集人員	入学志願者数	合格者数
一般入試	34名	36名	36名
社会人特別選抜		6名	6名

＜東京歯科大学歯科衛生士専門学校 歯科衛生科＞

入試方式	募集人員	入学志願者数	合格者数
推薦入学選考Ⅰ期	約35名	53名	38名
推薦入学選考Ⅱ期		9名	6名
一般入学試験Ⅰ期	約10名	5名	4名
一般入学試験Ⅱ期		2名	1名

④ 学生に関する情報

＜東京歯科大学 歯学部＞

【入学に関する基本的な方針】

建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、人物・学力ともに優秀で、将来、国民医療に貢献する歯科医療担当者としての能力・適正を十分に有するものを求めている。

1. 医療人としての倫理観や高い人間性を、常に向上心をもって追求しようとする意欲のある者
2. 歯科医学を学ぶための十分な資質と基礎学力を有する者
3. 口腔の健康管理を通じ、国民医療に貢献しようとする意欲のある者
4. 問題解決能力や変革意欲の高い者
5. 他者との協調性を大切にできる者

入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	卒業後進路
143名 (編入学15名含む)	840名 1年次140名 2年次140名 3年次140名 4年次140名 5年次140名 6年次140名	845名 1年次129名 2年次152名 3年次144名 4年次152名 5年次121名 6年次147名	127名	臨床研修歯科医 120名 上記以外の者 7名
平成27年5月1日現在			平成28年3月31日現在	平成28年5月1日現在

【卒業後の進路】

歯学部卒業後、歯科医師国家試験に合格した者は、歯科医師法に基づく臨床研修を1年間受ける。卒業生の多くが本学の3病院（水道橋病院・市川総合病院・千葉病院）で研修する。その後、大学院等に進学して研究者の道を志す者、勤務医となる者、開業する者等、その道は様々である。

＜東京歯科大学 大学院歯学研究科＞

【入学に関する基本的な方針】

歯学研究科では、次のような「研究指導者をめざす学生」ならびに「高度な専門知識を備えた専門職業人をめざす学生」を求めている。

1. 人類の持続的発展に貢献するために強い学術的関心と幅広い視野を持つ人
2. 国際的視野と高度な専門知識・語学力を身に付け、人類福祉の増進に寄与したい人
3. 既成の価値観にとらわれず、自ら問題を発見し、解決しようとする力を備えている人
4. 将来研究指導者または高度専門職業人として国際的に活躍したいという意欲のある人

入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
42名	136名 1年次 34名 2年次 34名 3年次 34名 4年次 34名	154名 1年次 42名 2年次 38名 3年次 41名 4年次 33名	35名	就職者 33名 専修科 2名 その他 1名
平成27年5月1日現在			平成28年3月31日現在	平成28年5月1日現在

＜東京歯科大学歯科衛生士専門学校 歯科衛生科＞

【入学に関する基本的な方針】

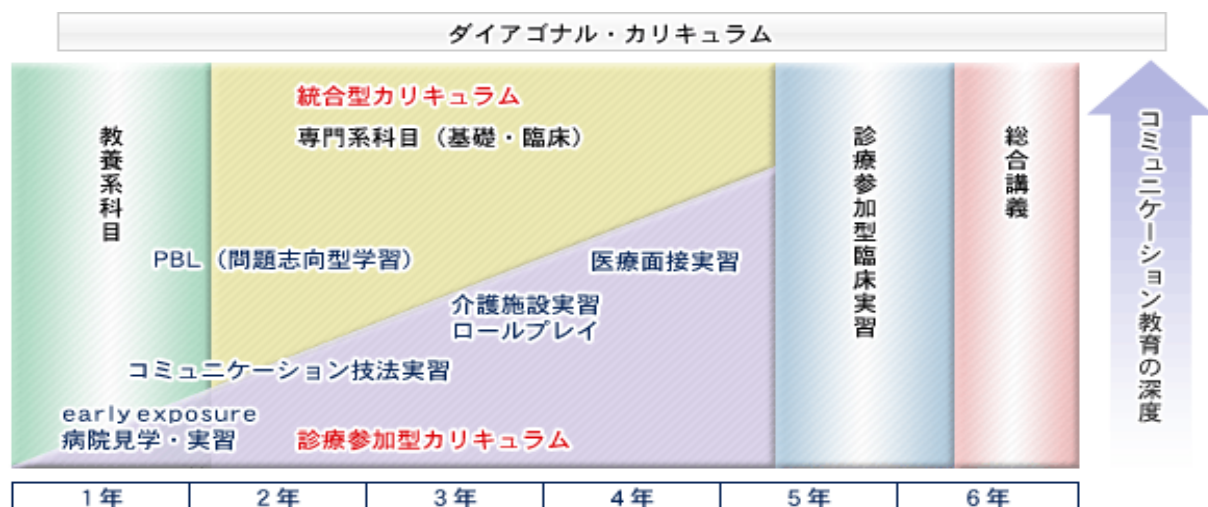
歯科医療従事者としての能力・適性がある者。

歯科医療従事者の一員として社会に貢献しようとする意欲のある者。

入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
50名	130名	147名	48名	就職 48名
平成27年5月1日現在			平成28年3月31日現在	平成28年3月31日現在
【卒業後の進路】				
歯科衛生士国家試験に合格した卒業生が、病院、企業、診療所等へ就職している。				

⑤ 教育課程に関する情報

＜東京歯科大学 歯学部＞ カリキュラム



教養系					
1 年	人間科学	1 年	生物学 II	1 年	〔選択〕独語
1 年	生命倫理	1 年	実習自然科学 I	1 年	〔選択〕中国語
1 年	医療法学	2 年	実習自然科学 II	1 年	〔選択〕韓国語
1 年	美術	1 年	自然科学演習	1 年	体育実技
1 年	哲学	1 年	実用日本語 I	1 年	数学 I (基礎・一般)
1 年	経済学	1 年	実用日本語 II	1 年	統計学入門
1 年	物理学 I (基礎・一般)	1 年	英語 I	2 年	医療統計学
1 年	物理学 II (基礎・一般)	1 年	英語 II	1 年	歯科医学概論 (歯科医学史)
1 年	化学 I (基礎・一般)	2 年	科学英語	1 年	社会保障
1 年	化学 II (基礎・一般)	2 年	歯科医学英語	1 年	情報科学入門
1 年	生物学 I (基礎・一般)	2 年	英語 III (歯科医学英語講読)	1 年	人類学

専門系					
【基礎系科目】					
2 年	解剖学	2, 3 年	生化学	3 年	薬理学実習
2 年	解剖学実習	3 年	生化学実習	2 年	歯科薬理学
2 年	口腔解剖学	3 年	病理学	2, 3 年	歯科理工学
2 年	口腔解剖学実習	3 年	病理学実習	3 年	歯科理工学実習
2 年	組織学	3 年	歯の病変	3 年	衛生学
2 年	組織学実習	3 年	口腔病理学	3 年	衛生学実習
2 年	口腔組織学	3 年	口腔病理学実習	3, 4 年	口腔衛生学

2 年	口腔組織学実習	2 年	微生物学	4 年	口腔衛生学実習
2 年	生理学	3 年	微生物学実習	3 年	法歯学
3 年	生理学実習	3 年	口腔微生物学	4 年	社会歯科学
2, 3 年	口腔生理学	2, 3 年	薬理学		

【臨床系科目】

3 年	歯内療法学	4 年	クラウンブリッジ補綴学実習	4 年	口腔インプラント学
3 年	歯内療法学実習	4 年	局部床義歯補綴学	4 年	口腔インプラント学実習
4 年	歯周療法学	4 年	局部床義歯補綴学実習	4 年	臨床検査学
4 年	歯周療法学実習	3, 4 年	歯科矯正学	4 年	内科学
3 年	保存修復学	4 年	歯科矯正学実習	4 年	外科学
3 年	保存修復学実習	4 年	歯科放射線学	4 年	小児科学
4 年	口腔顎顔面外科学	4 年	歯科放射線学実習	4 年	整形外科学
4 年	口腔病態外科学	3, 4 年	小児歯科学	4 年	産婦人科学
4 年	口腔外科学実習	4 年	小児歯科学実習	4 年	眼科学
3 年	歯科補綴学総論	4 年	歯科麻酔学	4 年	耳鼻咽喉科学
3 年	老年歯科補綴学	4 年	歯科麻酔学実習	4 年	皮膚科学・形成外科学
3 年	老年歯科補綴学実習	4 年	障害者歯科学	4 年	精神科学
4 年	クラウンブリッジ補綴学	4 年	オーラルメディシン		

【統合型科目】

2 年	生体科学	4 年	課題講義	5 年	課題講義
2 年	歯科物理学		・スポーツ歯学		・スポーツ歯学
2 年	発生生物学		・口腔の機能と感覚		・摂食・嚥下基礎機能
2 年	細胞分子生物学		・咬合と顎機能異常		・摂食嚥下リハビリテーション
2 年	発生病態学		・唾液の機能と唾液腺関連疾患		・訪問歯科
4 年	歯科医療管理学		・コミュニケーション学 IV		・医療管理
	・社会保障制度				
	・医療倫理				
	・医療安全管理・院内感染予防				

【コミュニケーション教育】

1 年 コミュニケーション学 I 「病院見学」	3 年 コミュニケーション学 III 「医療面接」 (総合予診シミュレーション 実習)	4 年 コミュニケーション学 IV (医療面接シミュレーション 実習)
2 年 コミュニケーション学 II 「コミュニケーション・ トレーニング」	3 年 コミュニケーション学 III 「介護施設実習」	
2 年 コミュニケーション学 II 「病院実習」 (口腔内診察・患者体験実 習、患者誘導実習)		

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

本学は、建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、歯科医師としての知識・技能だけでなく、コミュニケーション能力の向上と高い倫理観の醸成を柱とした教育課程を編成している。また、他領域との連携やグローバルな規模で活躍できる人材を育成するため、問題基盤型学習やグループ討論を通じて、積極性・能動性・協調性を伸ばす教育課程を編成している。

1. 医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を修得するために、ダイアゴナル・カリキュラムに基づく 6 年一貫コミュニケーション教育を推進する。
2. 歯科医学専門科目を十分に理解するために、必要な基礎知識の修得を目的として個々の習熟度に応じた教養教育のカリキュラムや IT リテラシー教育を実施する。
3. 医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な医療を提供するために、IT を活用した豊富な教育資源を活用した医学系科目を含む多元的かつ重層的な専門科目のカリキュラムを実施する。
4. 積極的な自主学習態度と論理的思考および問題発見・解決能力を修得するために、問題志向型学習カリキュラムを活用する。
5. 質の高い歯科医療を提供するために、充実した臨床基礎実習と特色ある本学の 3 病院における診療参加型臨床実習を実施する。
6. 国際人としての素養を身につけるために、海外研修を推進する。
7. 研究マインドを備えた歯科医療人となるために、卒業論文研究を推進する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本学の教育課程を通じて、歯科医師としての基本的な知識、技能、態度を修得するとともに、生涯研修・研究を行う態度、問題発見・解決能力を身につけることを学位授与の方針としている。

1. 医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を身につけ、常に向上しようと努力している。

2. 医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な医療を提供するために必要な基本的知識と技能を修得している。
3. 積極的な自主学習態度と論理的思考および問題発見・解決のための基本的な能力を身につけている。

【教養系科目】

教養系科目では、高度な教養と豊かな人間性を養い、歯科医学専門科目を十分に理解するために必要な基礎知識の総合的習得を目標としている。

一般教養科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目によって構成され、入学時のプレースメント・テスト等を活用し、理科・数学・英語系科目では、コース別授業や理解度別の授業を実施し、個々の習熟度に対応する柔軟なカリキュラムとなっている。また、情報科学入門では、PC 活用スキルや情報倫理を学習し、本学の充実した IT 環境を活用する能力を伸ばしている。

【歯科医学専門科目】

歯科医学専門科目では、適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を習得することを目標とし、さらに社会の福祉に貢献できる豊かな人間性の育成を目指している。授業では、画像・動画を活用したデジタルコンテンツも多く活用され、人体のしくみやはたらき、物質の代謝、病気が発生する原因とメカニズムなどの現象を理解しやすいよう工夫されている。臨床系科目では、疾病に対する正確な検査・診断法を学ぶとともに、新しい歯科医療材料や方法を応用した治療法など、高度な歯科医療行為を行うための知識と基本的な技能を最新の実習器材を用いて学習している。臨床の基本的な技能を学習する臨床基礎実習室には、多彩な視聴覚機能・実習設備が備えられ、実際の診療に即した技能を身につけられる。実習においては学生対教員の比が平均 8 対 1 という少人数指導体制で、密度の高い教育が実践されているのが特徴である。

【統合型科目】

平成 12 年度に教養系と専門系の融合による統合カリキュラム「人間生物学」をスタートさせたのを皮切りに、教養と専門の統合科目である「細胞分子生物学」「生体科学」「歯科物理学」、基礎と臨床の統合科目である「発生病態学」等を順次導入している。これらにより、各科目で学習する内容を統合し、それぞれの科目を関連付けて横断的に理解し、実際の臨床の現場に応用できるようにしている。

【PBL（問題志向型学習）】

PBL（Problem Based Learning）の手法を積極的に導入し、自ら問題を発見し、解決法を見出す学習法により、患者の心理や全身状態に配慮した総合的診断能力を身につけられるように取り組んでいる。これは、1, 2 年の低学年から（「新入生学外セミナー」）、3～5 年の高学年に至るまで（「発生病態学」「医療倫理」「課題講義」）継続的かつ段階的に実施し、生涯学習へとつながる能動的学習習慣を身につけられるように配慮されている。

【コミュニケーション教育（態度教育）】

医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、その基盤の上に立ちつつ優れた知識と技能を持つ医療者となって初めて全人的医療、すなわち患者の立場に立った、患者の心を思いやる医療が可能となる。本学では、高度な知識・技能のみならず、良き医療人としての態度を身につけた歯科医師を輩出するため、コミュニケーション教育（態度教育）の充実を図っている。コミュニケーション教育を実施するにあたっては、短期集中型の講義・実習では人間形成の点から良質な成果を望むことは難しいので、在学中のすべての年次において何らかの形で段階的・継続的かつ漸増的に行われるようなカリキュラムが組まれている（コミュニケーション教育におけるダイアゴナル・カリキュラム）。その教育内容は、様々な形態の学習とこれに対する学内外からの多面的評価によって行われ、1年次から6年次まで時期、レベルに応じた教育が行われている。

【臨床実習（診療参加型臨床実習）】

臨床実習は、第5学年から始まり、水道橋病院、市川総合病院、千葉病院での臨床講義、示説、見学の他、教員によるマンツーマンの指導のもと、直接患者を担当する診療参加型の実習を行っている。多くの患者が来院され、豊富な症例を体験できる環境が整っている。特に、市川総合病院における臨床実習は、歯学部学生が一般医学臨床部門の見学と示説を通して一般医学知識を習得することを目標としており、本学の特色の一つとなっている。また、歯科・口腔外科（オーラルメディシン・口腔外科学講座）では、全身疾患を有する患者の歯科・口腔領域における治療の実際を習得するための臨床実習を行っている。

3病院それぞれの特色を生かした臨床実習カリキュラムは他歯学部にも例をみない本学独自のものであり、本学の歯科医学教育に対する姿勢を如実に示すものである。

平成27年度は、下記の日程で授業・試験等が行われた。

平成27年度学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定
平成27年 4月 1日	水	新入生・編入生オリエンテーション
3日	金	2・3・4年生オリエンテーション
5日	日	入学式
6日	月	新入生プレースメントテスト・健康診断 2・3・4年生前期授業開始 5年生オリエンテーション・授業開始
8日	水	1年生前期授業開始
13日	月	5年生登院式
22日	水	} 新入生学外セミナー
24日	金	
30日	木	} 1～4年生休講日（4/29～5/6 連休）
5月 1日	金	
8日	金	振替授業（水曜日分）
6月 3日	水	6年生第1回総合学力試験（4日（木）まで）
19日	金	実験動物供養祭（3年生）
7月18日	土	1～4年生夏期休暇 開始（9月3日（木）まで）
8月31日	月	6年生第2回総合学力試験（9月1日（火）まで）
9月 4日	金	1～4年生前期授業再開
5日	土	5年生第1回総合学力試験
11日	金	1～4年生前期授業終了
16日	水	1・4年生前期定期試験（30日（水）まで） 2・3年生前期定期試験（28日（月）まで）
29日	火	解剖慰霊祭（2・3年生）
10月 1日	木	1・2・3・4年生後期授業開始
15日	木	振替授業（月曜日分）
21日	水	振替授業（金曜日分）
23日	金	} 第47回東歯祭（準備を含む）
25日	日	
29日	木	6年生第3回総合学力試験（30日（金）まで）
11月14日	土	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学A、学士等特別選抜A
26日	木	振替授業（月曜日分）
12月18日	金	} 1・2・3・4年生前期追・再試験
24日	木	
25日	金	1～4年生冬期休暇 開始（1月7日（木）まで）
平成28年 1月 5日	火	6年生第4回総合学力試験（6日（水）まで）
8日	金	1・2・3・4年生授業再開
16日	土	大学入試センター試験（17日（日）まで）
29日	金	1・2・3・4年生後期授業終了
2月 2日	火	一般入学試験（I期）、センター利用入試（I期）
5日	金	1・2・3・4年生後期定期試験（15日（月）まで）
12日	金	本学創立記念日
16日	火	4年生総合学力試験
17日	水	2年生総合学力試験
18日	木	4年生共用試験（CBT）
19日	金	3年生総合学力試験
20日	土	5年生第2回総合学力試験
22日	月	1年生総合学力試験
27日	土	4年生共用試験（OSCE）テストラン（教職員のみ）
28日	日	4年生共用試験（OSCE）
3月 1日	火	} 1・2・3・4年生後期追・再試験
4日	金	
7日	月	3・4年生総合学力追・再試験
8日	火	5年生総合学力追・再試験
9日	水	4年生共用試験（CBT）追・再試験
10日	木	1・2年生総合学力追・再試験
12日	土	一般入学試験（II期）、センター利用入試（II期）、編入学B、学士等特別選抜B
15日	火	第121回卒業式

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等	修業 年限	必要修得 単位数	取得可能な 学位及び専攻名称
東京歯科大学	歯学部	6 年	別表 A に表示	学士（歯学）
	大学院歯学研究科	4 年	別表 B に表示	博士（歯学）
東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	3 年	1 2 1 単位	専門士（医療専門課程）

A. 歯学部科目履修方法

1. 教養科目及び履修単位数と授業料時間数

(1) 教養科目及び履修単位数

授業科目			必修	選択	備考
一般教育科目	人文科学・社会 科学関係科目	人間科学	4		
		生命倫理	2		
		法学	2		
		美術	2		
		哲学	2		
		経済学	2		
	自然科学関係 科目	物理学	2		
		化学	2		
		生物学	3		
		実習自然科学	2		
		自然科学演習	3		
外国語科目		英語	6		
		独語		3	3 単位選択
		中国語		3	
		韓国語		3	
保健体育科目		体育実技	2		
基礎教育科目		数学	3		
		歯科医学概論・社会保障	2		
		実用日本語	2		
		人類学	4		
		統計学	2		
		情報科学	2		
		細胞分子生物学	4		
		生体科学	1		
		歯科物理学	1		
		発生生物学	1		

(2) 専門教養科目及び授業料時間数

	授業科目	授業時間数
解剖学 (Ⅰ)	解剖学・同実習	144
	口腔解剖学・同実習	96
解剖学 (Ⅱ)	組織学・同実習	96
	口腔組織学・同実習	72
	歯の病変	24
生理学	生理学・同実習	96
	口腔生理学	48
生化学	生化学・同実習	120
臨床検査病理学	病理学・同実習	96
	口腔病理学・同実習	96
	臨床検査学	24
微生物学	微生物学・同実習	96
	口腔微生物学	24
薬理学	薬理学・同実習	96
	歯科薬理学	24
歯科理工学	歯科理工学・同実習	120
衛生学	衛生学・同実習	72
	口腔衛生学・同実習	72
法歯学・法人類学	法歯学	24
社会歯科学	社会歯科学	24
歯科保存学	歯内療法学・同実習	120
	保存修復学・同実習	144
歯周病学	歯周療法学・同実習	96
小児歯科学	小児歯科学・同実習	96
口腔外科学	口腔顎顔面外科学	48
	口腔病態外科学	48
	口腔外科学・同実習	24
歯科補綴学	老年歯科補綴学・同実習	120
	局部床義歯補綴学・同実習	120
	歯科補綴学総論	24
	クラウンブリッジ補綴学・同実習	144
歯科矯正学	歯科矯正学・同実習	96
歯科放射線学	歯科放射線学・同実習	60
歯科麻酔学	歯科麻酔学・同実習	60
口腔健康科学・総合	障害者歯科学	9

	課題講義 ・口腔の機能と感覚（口腔顔面痛） ・咬合と顎機能異常 ・唾液の機能と唾液腺関連疾患 ・コミュニケーション学Ⅳ ・医療管理 ・スポーツ歯学 ・摂食嚥下リハビリテーション ・訪問歯科	78
口腔インプラント学	口腔インプラント学・同実習	48
オーラルメディシン ・口腔外科学	オーラルメディシン	24
内科学	内科学・診断学 同臨床示説	48
外科学	外科学 同臨床示説	48
講座外	関連臨床医学・同示説	72
総合	コミュニケーション学	48
	歯科医学英語講読	24
	発生病態学	24
	歯科医療管理学 (社会保障制度・医療倫理・医療安全管理)	48
	総合講義	670
臨床	臨床実習	1,296

専門教育科目の総授業時間数は、4,800 時間以上とし、これを超えて授業する場合の増加時間は、おおむね 600 時間を限度とする。

2. 単位の算定及び履修方法

(1) 単位は、次の算定基準によりこれを計算する。

講義については、教室内における 1 時間の講義に対して教室外における 2 時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週 2 時間(90 分)15 週の講義をもつて 2 単位とする。

演習については、教室内における 2 時間の演習に対して教室外における 1 時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週 2 時間(90 分)15 週の演習をもつて 1 単位とする。

実習実技等については、すべて実習室、運動場等で行われるものとし、毎週 3 時間 15 週の実習又は実技をもつて 1 単位とする。

(2) 必修科目は、その全部を履修しなければならない。

(3) 選択科目の履修については、毎年所定の期間中に届け出なければならない。

(4) 専門教育科目の履修方法は、講義については 1 回の時間を 90 分とし、実習については、1 回の時間を 3 時間とする。

B. 大学院歯学研究科科目履修方法

学生は4年以上在学し、主科目・選択科目を合わせて30単位以上を履修し、更に独創的研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績をあげたものについては、大学院に3年以上在学すれば足りるものとしている。

歯学研究科では、特定の分野について専門的な知識の習得に限らず、関連する分野についても十分な知識を得て研究を進められるようカリキュラムが組まれており、平成23年度より主科目以外に必修科目を設置した。

必修科目	選択科目
・（所属講座・研究室の）「主科目」（通年） ・「研究情報学・医療統計学」 ・「細胞学・材料学」 ・「病態学」 ・「咬合学」 ・「大学院セミナー」 （通年：学内外の講師によるセミナー）	・（他講座・研究室での）「副科目」（通年） ・「大学院セミナー」 （通年：学内外の講師によるセミナー） ・「大学院指導教員による講義」（通年） ・「ベーシックセミナー」 （12月～1月頃、機器・施設単位で開講） （口腔科学研究センターの機器・施設使用に関するセミナー）

⑦ 学習環境に関する情報

東京歯科大学歯学部および大学院歯学研究科の3つのキャンパスは、水道橋、市川、そして千葉にある。3キャンパスそれぞれの附属病院は、臨床教育施設としての役割を担っている。

平成24年度より、キャンパスの拠点を段階的に千葉から水道橋に移し、東京という地の利を生かした学習環境の構築を進めている。

【水道橋キャンパス】

〈水道橋校舎本館〉

所在地： 東京都千代田区三崎町2-9-18

主な交通手段：

- ① JR水道橋駅下車→東口改札口を出て右手すぐ
- ② 都営地下鉄三田線 水道橋駅下車→「A2」出口を出て、JR水道橋駅方面 徒歩1分

キャンパスの概要： 7つの歯科診療科および内科・眼科の9診療科を有する、最先端の施設・設備を取り入れた都市型拠点病院である。また5年次の臨床教育、歯科医師臨床研修の場としても更なる発展を続けている。

〈水道橋校舎新館〉

所在地： 東京都千代田区三崎町2-1-14

主な交通手段：

- ① JR水道橋駅下車→東口改札口を出て右手方向徒歩1分
- ② 都営地下鉄三田線 水道橋駅下車→「A2」出口を出て、JR水道橋駅方面 徒歩3分

キャンパスの概要： 3つの基礎系講座、実習講義室他、図書館等を有する。また3・4・6年次のメインキャンパスとして、カリキュラムと連動した教育体制を整えている。

〈さいかち坂校舎〉

所在地： 東京都千代田区神田駿河台2-9-7

主な交通手段：JR 御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口より徒歩5分

キャンパスの概要： 地下1階、地上8階建てで地下1階と3階に学生ラウンジ、1階に事務室、2階に中講義室、4階に第1講義室、5階にウェット実習講義室、6階にドライ実習講義室、7階に図書館、8階に教授室や学生相談コーナーを配置し、平成24年度より1・2年次のメインキャンパスとなる。

【千葉キャンパス】

所在地： 千葉県千葉市美浜区真砂1-2-2

主な交通手段：

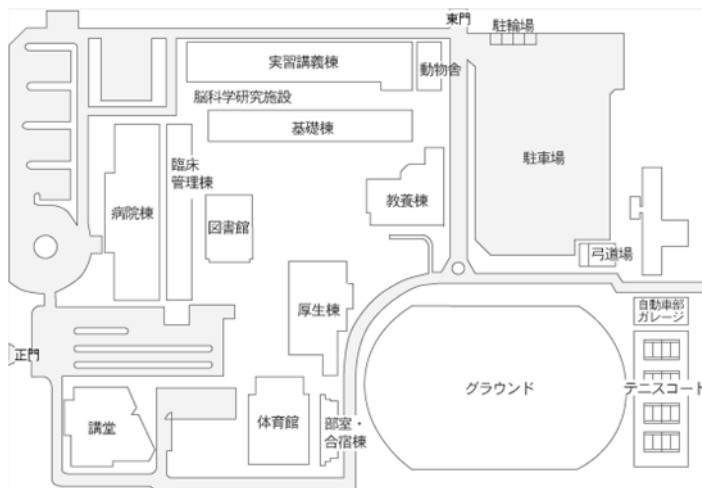
- ① JR稲毛駅下車→千葉海浜バス（1番乗場）「稲毛海岸駅行き（歯科大経由）」乗車→東京歯科大東門下車（所用時間：約10分）
- ② JR稲毛海岸駅下車→千葉海浜バス（4番乗場）「稲毛駅行き（歯科大経由）」乗車→東京歯科

大東門下車（所用時間：約１０分）

③ 京成稲毛駅下車→徒歩約１５分

キャンパスの概要： 病院棟（５年次）で、講義および実習が行われている。

運動施設の概要： 体育館には武道場、卓球場、剣道場、柔道場、トレーニング室があり、その他、部室合宿棟、グラウンド（１週 400 メートルトラック）、テニスコート５面、弓道場を擁している。また、千葉市若葉区には野球場として御殿町グラウンド（野球場 11,293 m² クラブハウス 247 m²）を備えている。



【市川キャンパス】

所在地： 千葉県市川市菅野５－１１－１３

主な交通手段：

- ① ＪＲ市川駅下車→京成バス（２番乗場）「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車（所用時間：約１５分）
- ② 京成電鉄「市川真間駅」下車→改札口をでて左側の階段を降り直進→京成バス「市川真間駅」停留所より「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車（所用時間：約１０分）

キャンパスの概要： 歯科学生に対する一般医学教育を充実させることを目的として昭和２１年に開院した。現在は総合病院に発展し、専任教員により歯科学生への臨床医学教育を行っている。平成１８年には口腔がんセンターが開設され、より専門的な医療を行っている。

⑧ 学生納付金に関する情報（平成 27 年度入学者について）

東京歯科大学 歯学部

（1）入学年度学生納付金額（9,400,000 円）

	金 額	納入時期
入学金	600,000 円	推薦、帰国子女・留学生特別選抜、編入学 A 学士等特別選抜 A 平成 26 年 11 月 13 日～11 月 21 日 一般（Ⅰ期）、センター利用（Ⅰ期） 平成 27 年 2 月 5 日～2 月 13 日 一般（Ⅱ期）、センター利用（Ⅱ期）、編入学 B 学士等特別選抜 B 平成 27 年 3 月 18 日～3 月 25 日
歯学教育充実費	4,300,000 円	
施設維持費	1,000,000 円	
授業料	3,500,000 円	※入学時一括納入可 前期 1,750,000 円（上記に同じ） 後期 1,750,000 円（平成 27 年 10 月 31 日まで）

※授業料減免制度あり

（2）2 年目以降毎年度納入額（4,500,000 円）

	金 額	納入時期
授業料	3,500,000 円	※前・後期一括納入可 前期 1,750,000 円（4 月 30 日まで） 後期 1,750,000 円（10 月 31 日まで）
施設維持費	1,000,000 円	4 月 30 日まで

※授業料減免制度あり

東京歯科大学 大学院歯学研究科

（1）入学年度学生納付金額（1,000,000 円）

	金 額	納入時期
入学金	300,000 円	第Ⅰ期合格者 平成 26 年 12 月 15 日～12 月 22 日 第Ⅱ期合格者 平成 27 年 3 月 9 日～3 月 16 日 ※ただし、授業料については、前・後期に分納することができる。
施設維持費	100,000 円 ※本学卒業者からは徴収しない	
授業料	600,000 円	

※授業料減免制度はなし

（2）2 年目以降毎年度納入額（600,000 円）

	金 額	納入時期
授業料	600,000 円	※前・後期分納可 前期 300,000 円（4 月 30 日まで） 後期 300,000 円（10 月 31 日まで）

※授業料減免制度はなし

東京歯科大学歯科衛生士専門学校(入学年度学生納付金額 900,000 円 2 年目以降 700,000 円)

	金額	納入時期
入学金	200,000 円	推薦Ⅰ期入学者 平成 26 年 10 月 21 日～11 月 7 日 推薦Ⅱ期入学者 平成 26 年 12 月 10 日～12 月 25 日 一般Ⅰ期入学者 平成 27 年 1 月 28 日～2 月 6 日 一般Ⅱ期入学者 平成 27 年 3 月 4 日～3 月 11 日
授業料	700,000 円	前期 350,000 円 (4 月 30 日まで) ※ただし入学時は上記入学金に同じ 後期 350,000 円 (10 月 31 日まで)

※授業料減免制度はなし

⑨ 学生支援と奨学金に関する情報

本学では、学生の修学及び学生生活上の全般的な支援を行うための支援体制として、学年毎に学年主任・副主任を置き、きめ細かな修学指導を行っている。健康管理面では、水道橋病院内科医師を学校医として置き、修学指導関係者と密に連携を取りながら対応している。

奨学金については、学生生活を経済的に援助することを目的とした独自の奨学金制度として、学資の一部を給付する「東京歯科大学特別奨学金」と、学資の一部を貸与する「東京歯科大学貸与奨学金」、提携学資ローン利用者のうち、規定条件を満たした者を対象とした「利子補給奨学金」を設けている。また、非常災害被災等経済的に修学が困難になった学生に対して、学資の全額または一部を免除する「東京歯科大学授業料等減免制度」を設けている。

<奨学金制度>

名 称	内 容	金 額	期 間
東京歯科大学特別奨学金	学業・人物が優れている者に学資の一部を給付し、優秀な人材を育成することを目的としている。	授業料 施設維持費の範囲内	1 年
東京歯科大学貸与奨学金	経済的理由(学費支弁者の事故等)により修学が困難な学生に所定の金額を貸与する。	施設維持費の範囲内	最長 3 年
東京歯科大学 授業料等減免	非常災害被災等経済的に修学が困難になった学生に対して、学資の全額または一部を免除する。	授業料 施設維持費の範囲内	最長 6 年
東京歯科大学 利子補給奨学金	提携学資ローン利用者を対象に条件を満たす学生に在学中に発生するローンの利子を補給する。	支払利子額を限度	最長 6 年

<学生支援組織>

学年毎に学年主任・副主任を置き、修学上及び学生生活全般に対するサポート体制をとっている。また、体調不良の学生は本学の付属病院である水道橋病院、市川総合病院および千葉病院で随時受診できる体制を整えている。

（３）管理運営の概要

【ガバナンスについて】

平成 25 年 6 月 1 日付で寄附行為施行細則を改正し、病院担当の常務理事を新設し、業務執行機能の強化を図った。定例及び臨時の理事会の他、毎月常務理事の連絡会を開催し、各常務理事間の情報共有化に努めている。

平成 22 年に設置した内部監査室による内部監査体制を強化し、実地監査の頻度を上げる等、よりきめ細かく状況把握並びに改善・合理化のための助言、提言を行っている。

【自己点検・評価について】

平成 21 年度に大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審した。そして同年 10 月の実地視察等を経て、平成 22 年 3 月 12 日付大基委大評第 300 号をもって大学基準協会より、本学が「大学基準に適合している」旨の通知と「大学基準適合認定証」が交付された。本学に対する認定期間は、平成 22 年 4 月 1 日より 7 年間（平成 29 年 3 月末まで）である。総評に関連して幾つかの「助言」が付されたが、これらについてはその趣旨に添った改善策を講じ、改善状況を「改善報告書」として取りまとめ、平成 25 年 7 月に大学基準協会に提出した。そして、平成 26 年 3 月に大学基準協会より「改善報告書検討結果」を受けた。概評における「助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。」との評価内容への対応として、指摘を受けた事項についてこれまで改善に努めてきた。平成 27 年 7 月からは、大学基準協会による平成 28 年度大学評価（認証評価）受審に向けて自己点検・評価委員会を開催、各部門担当者間でも協議を重ね、全学的に取り組んできた。平成 28 年 3 月に点検・評価報告書の最終案を取りまとめ、大学基準協会へ受審申請を行った。今後は、平成 28 年 9 月以降に予定される実地調査に向けて準備を進めていく。

【情報公開について】

ホームページ上に情報の公表ページを設け、財務情報のほか、教育研究上の情報、就学上の情報を社会に向けて公表するため、閲覧者が分かりやすい内容で公開している。また、本学の組織・運営及び教育・研究諸活動についての現状とそれに対する社会的評価を社会に向けて公表するため、自己点検・評価結果及び大学評価（認証評価）結果をホームページ上で公開している。

【施設設備整備について】

本学は、歯学部、大学院歯学研究科を設置しており、その臨床教育施設として 3 つの附属病院を設けている。これらの施設は、水道橋、千葉、市川の 3 キャンパスに分散配置されている。なお、平成 25 年 9 月よりキャンパスの中心拠点を千葉から水道橋に移している。

水道橋キャンパスでは、平成 24 年 4 月にさいかち坂校舎が開校し、平成 25 年 3 月に水道橋校舎本館で水道橋病院、大学を含めた改修工事が完了した。平成 25 年 9 月には水道橋校舎新館が開校した。また、平成 28 年 3 月には水道橋校舎本館西棟が竣工し、今後大学機能及び水道橋病院での臨床教育の現場が拡充する。千葉キャンパスでは、臨床教育研究施設である千葉病院が置かれてい

る。また、学外の御殿町グラウンドに、公式試合に使用できる野球場とクラブハウスを整備している。市川キャンパスには、570床の総合病院が置かれている。

(4) その他取り組みの概要

① 教育力向上の取り組みの概要

本学の特色として、歯科医学教育に関する教育内容、教育方法の研究・開発を行う教育の中心的部門として歯科医学教育開発センターを設置し、教務部と連携して様々な取組を行っている。平成17年度には文部科学省の「特色GP」「現代GP」に採択され、IT環境を活用した6年一貫の総括的評価、e-learning Programの開発を行っている。平成21年度には「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムに採択され、「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」という「安心・信頼して診療を任せられる、歯科医師としての人間力を身につけ、卒業時には、患者の社会的背景、複数の疾患、年齢、患者周囲の状況などを配慮した総合診療計画が立案できる、社会が求める歯科医師を養成する」取り組みを行っている。平成24、25年度には「教育研究活性化設備整備事業」に採択され、「習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカーの活用」という取り組みを推進している。このほか、カリキュラム研修ワークショップ、試験問題作成に関するワークショップ、教育ワークショップ、歯科医学教育セミナー、学生による授業評価など継続したFD活動を進め、学年主任・副主任を中心とした学生サポート体制の強化も推進している。

② 国際交流の概要

本学では、平成26年3月に新たにタフツ大学（アメリカ）と姉妹校協定を締結し、現在、アメリカ・スウェーデン・韓国・中国・台湾・ロシアの6ヶ国10大学が姉妹校となっている。また、世界中の大学や研究機関とも研究者間および学生間の交流を活発に推進している。

さらに、研究の高い水準の維持・向上や新しい医療技術の導入のため、本学教職員の海外研究者との共同研究のための渡航、国際学会等への参加についても、積極的に推進、支援している。学生教育については、国内あるいは外国での学生相互間の交流を通して、風俗、習慣による考え方の相違点と共通点を認識させ、国際感覚を養うことにより、人類のための普遍的な歯科医療に貢献できる人材の養成を目指している。平成26年度は海外姉妹校の施設見学、学生交流等を行う「Elective Study」プログラムにより、夏季期間を利用し、第1学年から第6学年までの成績上位者が台北医科大学およびタフツ大学歯学部（アメリカ）等を訪問し、学生交流を行った。

今後ますます社会におけるグローバル化が進む中で大学における国際交流を推進することは、世界に向けて日本の歯科医学の研究と医療の立場を明確に示すことのできる人材を養成する上で極めて重要な意義をもつものである。

③ 社会貢献・連携活動の概要

本学は、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の3つの附属病院を設置し、それぞれ歯科医療及び内科医療の中核的地域医療機関として地域の医療にも大きく貢献している。これらの附属病院は、一般歯科診療所、開業医の支援病院としても地域医療を支えている。

千葉校舎では、医療系大学の特色を生かし、地域市民を対象に、歯・口腔・身体的健康に関する

関心度の高い内容についてテーマを設定した講演会を、本学千葉校舎が所在する千葉市美浜区真砂の関連団体（真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会）と共催で毎年開催している。平成27年度は「矯正歯科治療、子供も大人も必要です」と題した講演会を平成27年10月24日（土）に開催した。

水道橋病院では、「歯科医師たる前に人間たれ」の建学の精神に基づき、「思いやりの心による医療」を基本理念に、患者さまの人権を尊重した、安全・安心の医療を提供している。患者さまには、全ての病院スタッフが連携し総合的なチーム医療を提供することにより、健康で幸福な生活の実現を目指している。

本院の『地域医療連携委員会』においては、東京都歯科医師会、本学同窓会、さらに千代田区、中央区内の各歯科医師会から学外委員として参画して頂き、地域医療機関と連携して良質で高度な医療の提供を行い、社会・地域医療へ貢献を図っている。

日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めることを目的として、紹介医の先生方を招待して「水道橋病院症例報告会」を毎年開催し好評を博している。

千葉病院では、市民の健康増進のため、口腔がんを早期に発見し死亡率の低下を目指すことを目的とし、千葉市より委託を受けた口腔がん検診事業を毎年実施している。また、各地の歯科医師会が行っている口腔がん検診にも協力している。また、医療連携活動の一環として、千葉県歯科医師会および近隣郡市歯科医師会の皆様をお招きし、先進的なテーマや重要な課題を取り上げた医療連携協議会・医療連携講演会を毎年開催している。また、患者様や近隣住民の皆様向けに、エントランスホールを利用したロビーコンサートやロビーレクチャーを開催し、好評を得ている。さらに、歯科衛生士専門学校との共催で「千歯祭」を開催しており、地域の方々との密接な交流を図っている。

市川総合病院では、「地域医療支援病院」の指定を受けたことを踏まえ、今後、より具体的な地域医療連携の各施策を実施に移していくことになる。従来から行ってきた地域の医療従事者対象研修である「市川リレーションシップカンファレンス（IRC）」の定期開催と内容の充実、地域医療機関との当院医療資源の共同利用、その他、多方面にわたる業務上の連携、人的交流のレベルが飛躍的に高まっていく年度となることが期待される。

3. 財務の概要

(1) 財産目録

財 産 目 録

(単位:千円)

科 目	平成27年度	平成26年度	増 減
資 産 額			
1. 基 本 財 産	46,055,336	44,469,273	1,586,063
土地	(216,446.87 m ²) 15,630,453	(216,489.45 m ²) 15,593,167	37,286
建物	(138,861.553 m ²) 24,511,604	(135,631.313 m ²) 21,770,685	2,740,919
図書	(47,384 冊) 845,722	(46,031 冊) 836,084	9,638
教具・工具・備品	(4,480 点) 3,844,311	(4,016 点) 4,012,381	△ 168,070
その他	1,223,247	2,256,957	△ 1,033,710
2. 運 用 財 産	25,152,687	25,338,036	△ 185,349
現金預金	4,126,008	3,996,731	129,277
その他	21,026,679	21,341,305	△ 314,626
3. 収益事業用財産	15,419	6,201	9,218
資 産 総 額	71,223,443	69,813,509	1,409,934
負 債 額			
1. 固 定 負 債	8,646,203	9,013,632	△ 367,429
長期借入金	3,865,600	4,154,880	△ 289,280
長期未払金	6,823	126,107	△ 119,284
その他	4,773,780	4,732,644	41,136
2. 流 動 負 債	3,219,642	3,313,097	△ 93,455
短期借入金	289,280	289,280	0
前受金	1,265,147	1,290,115	△ 24,968
その他	1,665,214	1,733,702	△ 68,488
負 債 総 額	11,865,845	12,326,728	△ 460,883
正味財産(資産総額－負債総額)	59,357,598	57,486,781	1,870,817

※科目毎に千円未満で四捨五入している為、内訳と総額及び増減において差異が生じる場合がある。

1. 土地の増加は、市川総合病院隣接地取得によるものである。
2. 建物の増加は、主に水道橋校舎本館西棟建設・本館道連れ工事によるものである。
3. 教具・工具・備品の減少は、平成27年度の教育研究用機器備品の取得額よりも減価償却額の方が大きかったことによるものである。
4. 基本財産のその他の減少は、水道橋校舎本館西棟完成に伴う建設仮勘定の本勘定への振替えによるものである。
5. 固定負債の長期借入金は、日本私立学校振興・共済事業団および銀行からの借入金である。
6. 流動負債の短期借入金は、長期借入金からの振替によるものである。

(2) 貸借対照表

貸 借 対 照 表

平成 28年 3 月 31 日現在

資 産 の 部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	((61,315,214))	((59,973,036))	((1,342,178))
有形固定資産	(45,940,377)	(44,345,366)	(1,595,012)
土 地	15,630,453	15,593,167	37,286
建 物	24,511,604	21,770,685	2,740,919
構 築 物	664,486	694,413	△ 29,927
教育研究用機器備品	3,844,311	4,012,381	△ 168,070
管 理 用 機 器 備 品	362,437	401,499	△ 39,062
図 書	845,722	836,084	9,638
車 両	734	1,165	△ 431
建 設 仮 勘 定	80,630	1,035,972	△ 955,342
特 定 資 産	(15,258,063)	(15,493,984)	(△ 235,921)
退職給与引当特定資産	4,773,780	4,732,644	41,136
減価償却引当特定資産	10,264,950	10,588,050	△ 323,099
大学移転寄付特定資金	67,893	21,633	46,260
大学奨学金特定資産	151,440	151,658	△ 218
その他の固定資産	(116,774)	(133,686)	(△ 16,912)
電話加入権	0	9,619	△ 9,619
施設利用権	5,268	2,632	2,637
ソフトウェア	4,040	5,446	△ 1,406
収益事業元入金	52,070	52,070	0
長期貸付金	53,581	54,141	△ 560
長期前払費用	1,249	8,613	△ 7,364
敷金保証金等	566	1,165	△ 600
流 動 資 産	((9,892,810))	((9,834,273))	((58,537))
現 金 預 金	4,126,008	3,996,731	129,277
未 収 入 金	3,396,222	3,546,444	△ 150,222
貯 蔵 品	191,685	227,184	△ 35,498
短 期 貸 付 金	2,066,628	1,966,095	100,533
短 期 前 払 費 用	112,266	97,819	14,447
資 産 の 部 合 計	71,208,024	69,807,309	1,400,715

負 債 の 部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	((8,646,203))	((9,013,632))	((△ 367,428))
長 期 借 入 金	3,865,600	4,154,880	△ 289,280
長 期 未 払 金	6,823	126,107	△ 119,284
退 職 給 与 引 当 金	4,773,780	4,732,644	41,136
流 動 負 債	((3,219,642))	((3,313,097))	((△ 93,455))
短 期 借 入 金	289,280	289,280	0
未 払 金	1,462,444	1,516,789	△ 54,345
前 受 金	1,265,147	1,290,115	△ 24,967
預 り 金	202,770	216,913	△ 14,143
負 債 の 部 合 計	11,865,845	12,326,728	△ 460,883

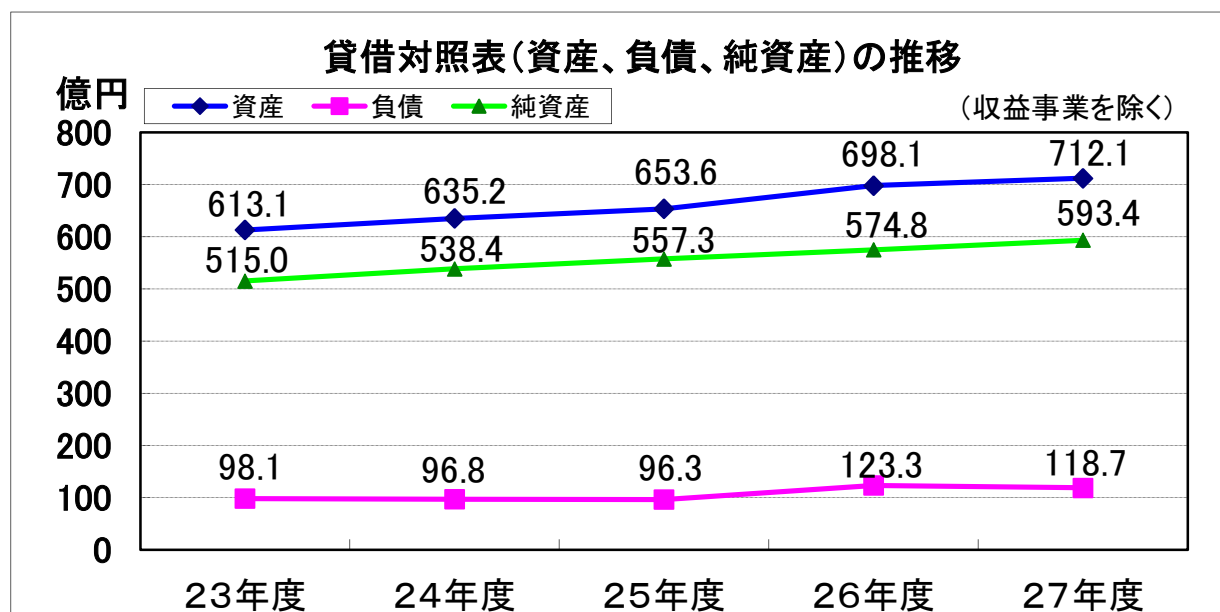
純 資 産 の 部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	((83,331,827))	((83,128,254))	((203,573))
第1号基本金	81,446,836	81,290,698	156,139
第4号基本金	1,884,991	1,837,556	47,434
繰越収支差額	((△23,989,648))	((△25,647,673))	((1,658,025))
翌年度繰越収支差額	△23,989,648	△25,647,673	1,658,025
純資産の部合計	59,342,179	57,480,581	1,861,598
負債及び純資産の部合計	71,208,024	69,807,309	1,400,715

※科目ごとに千円未満で四捨五入している為、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

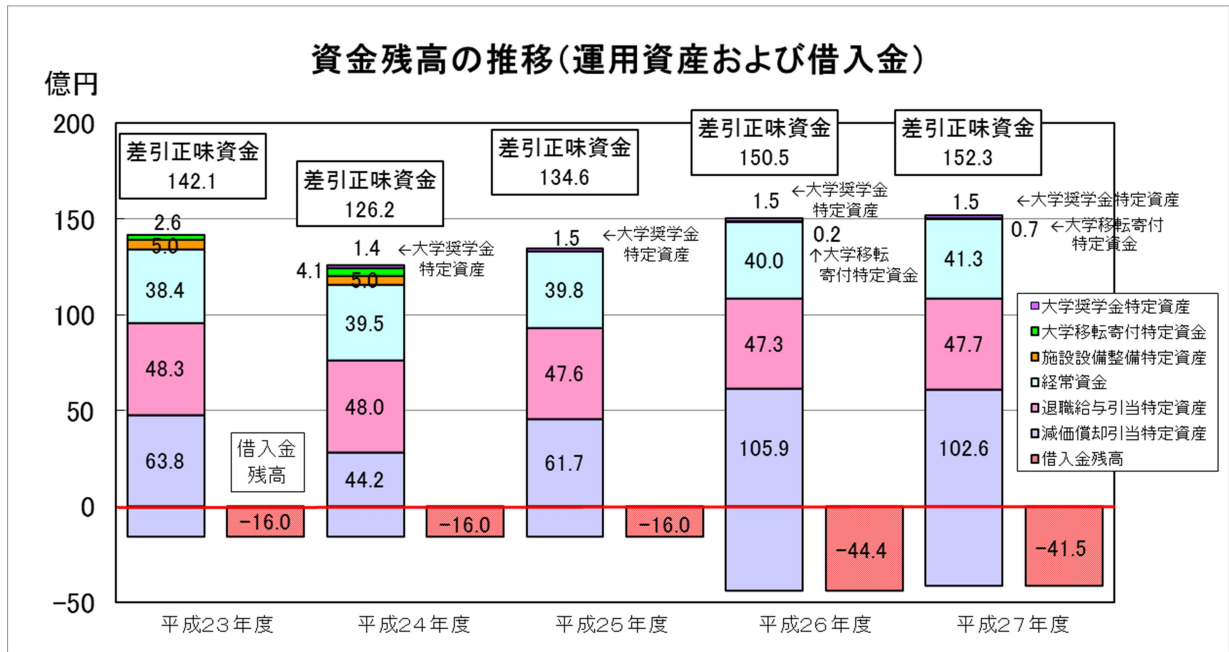
※前年度末は平成25年改正後の学校法人会計基準に基づく貸借対照表に組み替えて表示している。

☆純資産＝資産－負債（＝基本金＋繰越収支差額）



※純資産については、平成26年度以前は正味資産（基本金＋消費収支差額）を表している。

対前年度比で、有形固定資産は水道橋校舎本館西棟建設などで建物が27億4,000万円増加し、特定資産は減価償却引当特定資産の減などで減少、固定資産合計では、約13億4,200万円増加した。流動資産は現金預金などが増加し、資産の部合計では、約14億円の増となった。一方、負債の部は、固定負債の部で水道橋校舎本館西棟建設・本館改修工事に係る銀行借入金の返済等により約3億6,700万円減少し、流動負債の部の減少と合わせて、負債の部合計では、約4億6,000万円の減となった。学校法人の資金調達源泉を分析する純資産構成比率（純資産／（負債＋純資産））は27年度83.3%となり、前年度より1.0%数値は増加した。負債の割合を見る総負債比率（総負債／総資産）は1.0%低い16.7%となった。



運用資産は、特定資産・経常資金合わせて平成27年度決算では約193億8,400万円となった。水道橋校舎本館西棟建設に係る資金支出などにより、前年度より約1億600万円の減となっている。日本私立学校振興・共済事業団と銀行からの借入金約41億5,400万円を除く差引正味資金は152億2,900万円である。また大学移転寄付特定資産は約6,700万円となった。さらに、退職給与引当金の100%の額を退職給与引当特定資産として約47億7,300万円保持しているほか、大学奨学金特定資産として約1億5,100万円、減価償却引当特定資産として約102億6,400万円を保持している。

(3) 収支計算書

資金収支計算書

学校法人会計での資金収支計算書を作成する目的は、第一に当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにすること、第二に当該会計年度での支払資金の収入と支出とその顛末を明らかにすることである。当該年度はもとより、前年度以前あるいは次年度以降の諸活動に関する資金も含め、当該会計年度の中で実際に動きのあった全ての支払い資金（現金預金）の収支の動きを明らかにするため調整項目を設けている。また、その他の収入・資産運用支出の科目は、繰返し発生する年中の資金の出入りを総額で表示しているため大きな額となっている。

平成27年度において、（収入の部）では、補助金収入は施設設備補助金の実績がなかったことなどで対予算比減、大学移転での教育研究関係支出増により前年度の私立大学等経常費補助金が例年になく多かったことで対前年決算比で減となっている。医療収入は、水道橋病院で対予算比増、千葉病院で減、2病院では予算を上回ったものの、市川総合病院で予算額を下回り、対予算で約1億5,300万円減となった。前年度との比較では2億5,100万円の増となった。雑収入の対予算増は、主に臨時的な退職者の退職金財団交付金の増によるものである。借入金等収入は、前年度に水道橋校舎本館西棟建設・本館改修工事関係資金としての銀行からの借入があった。前受金収入は、学部・歯科衛生士専門学校の平成28年度入学生からの学納金ほかである。その他の収入は、各特定資産からの繰入収入、前期末未収入金収入、貸付金回収収入などである。以上、収入の総額から資金収入調整勘定の期末未収入金・前期末前受金などを差し引いた収入の部小計は、約694億100万円となった。前年度繰越支払資金約39億9,600万円を加えた収入の部合計は、約733億9,700万円となった。

一方、（支出の部）では、人件費は教員・職員人件費支出とも対予算比減、対前年度比でも約1億9,200万円減となった。教育研究経費支出から設備関係支出まで対予算比減であるが、施設設備関係支出は、水道橋校舎本館西棟建設・短期大学計画での臨時的な本館改修工事があり予備費を当てている。資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入支出・減価償却引当特定資産への繰入支出などを総額表示している。その他の支出は、貸付金支払支出、前期末未払金支払支出などである。以上、支出総額から資金支出調整勘定の期末未払金等を差し引いた支出の部小計は、約692億7,100万円となり、支払資金約41億2,600万円が次年度へ繰越となった。

平成27年度 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成27年度予算	平成27年度決算	差 異	平成26年度決算	増 減
(収 入 の 部)					
1. 学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	4,772,890	4,824,981	52,091	4,734,013	90,969
2. 手 数 料 収 入	43,170	46,459	3,289	49,652	△3,193
3. 寄 付 金 収 入	63,600	106,683	43,083	98,694	7,989
4. 補 助 金 収 入	1,011,060	954,011	△57,049	1,171,768	△217,757
5. 資 産 売 却 収 入	0	8,791	8,791	0	8,791
6. 付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	471,140	492,509	21,369	497,458	△4,949
7. 医 療 収 入	20,148,440	19,994,808	△153,632	19,743,652	251,156
8. 受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	9,830	13,244	3,414	12,020	1,224
9. 雑 収 入	604,840	719,042	114,202	921,812	△202,770
10. 借 入 金 等 収 入	0	0	0	3,000,000	△3,000,000
11. 前 受 金 収 入	1,258,880	1,265,120	6,240	1,290,115	△24,994
12. そ の 他 の 収 入	25,987,900	45,661,866	19,673,966	23,768,528	21,893,338
13. 資 金 収 入 調 整 勘 定	△4,458,530	△4,686,743	△228,213	△4,850,641	163,899
小 計	49,913,220	69,400,773	19,487,553	50,437,070	18,963,704
14. 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	4,008,790	3,996,731	△12,059	3,976,943	19,788
収 入 の 部 合 計	53,922,010	73,397,504	19,475,494	54,414,012	18,983,492
(支 出 の 部)					
1. 人 件 費 支 出	12,501,300	12,200,753	△300,547	12,393,188	△192,435
2. 教 育 研 究 経 費 支 出	9,028,210	8,478,679	△549,531	8,596,177	△117,498
3. 管 理 経 費 支 出	2,474,840	2,366,000	△108,840	2,315,333	50,668
4. 借 入 金 等 利 息 支 出	31,670	31,669	△1	8,119	23,549
5. 借 入 金 等 返 済 支 出	289,280	289,280	0	155,840	133,440
6. 施 設 関 係 支 出	4,003,840	3,980,871	△22,969	1,421,441	2,559,429
7. 設 備 関 係 支 出	1,076,750	720,918	△355,832	642,104	78,814
8. 資 産 運 用 支 出	21,134,280	41,875,653	20,741,373	24,731,808	17,143,845
9. そ の 他 の 支 出	1,537,790	1,741,071	203,281	1,647,139	93,932
	{78,110}				
10. [予 備 費]	212,270		△212,270		
11. 資 金 支 出 調 整 勘 定	△2,422,360	△2,413,398	8,962	△1,493,867	△919,530
小 計	49,867,870	69,271,496	19,403,626	50,417,282	18,854,214
12. 次 年 度 繰 越 支 払 資 金	4,054,140	4,126,008	71,868	3,996,731	129,277
支 出 の 部 合 計	53,922,010	73,397,504	19,475,494	54,414,012	18,983,492

※科目ごとに千円未満で四捨五入している為、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

※平成26年度決算は平成25年改正後の学校法人会計基準に基づく資金収支計算書に組み替えて表示している。

事業活動収支計算書

平成２７年度決算での基本金組入前当年度収支差額は約１８億６，１００万円で、対予算では約１２億５００万円の増、対前年度実績では約１億７００万円の増となった。

平成２７年度の事業活動収入計は約２７１億７，４００万円となり、予算より約３，８００万円増となった。学生生徒等納付金や臨時の退職者による退職金財団交付金の増等による雑収入の増加があったものの、医療収入が対予算で約１億５，３００万円減となったほか、私立大学等経常費補助金が予算より減少し経常費等補助金は約２，６００万円減となった。

一方、事業活動支出計は約２５３億１，２００万円となり、予算より約１１億６，７００万円減となった。教員・職員人件費とも対予算比減で、人件費は予算より約３億１，６００万円減となった。教育研究経費総額では予算より約５億５，１００万円減となった。＜教育研究経費＞では多くの科目で予算内執行となり、＜医療経費＞では全体で約７，４００万円の増となった。また管理経費総額では予算より約８，６００万円減となった。

教育活動収支差額、経常収支差額とも約９億６，０００万円前後の対予算比増となり、特別収支の特別支出で予備費を当てたものの、特別収支差額も含め全体に安定した執行となった。

基本金組入額合計は、約１０億２，７００万円を計上した。第１号基本金組入額は、新たな固定資産の取得額から本年度の除却および廃棄する固定資産の額を差し引いた額を組み入れた。学校法人、大学、水道橋病院で水道橋校舎本館西棟建設・本館改修工事による建物取得のほか、市川総合病院での空調設備更新工事、看護宿舎改修更新工事により第１号基本金に約９億８，０００万円を組み入れている。第４号基本金組入額は、恒常的に保持すべき資金として約４，７００万円を組み入れている。

平成27年度 事業活動収支計算書

(単位:千円)

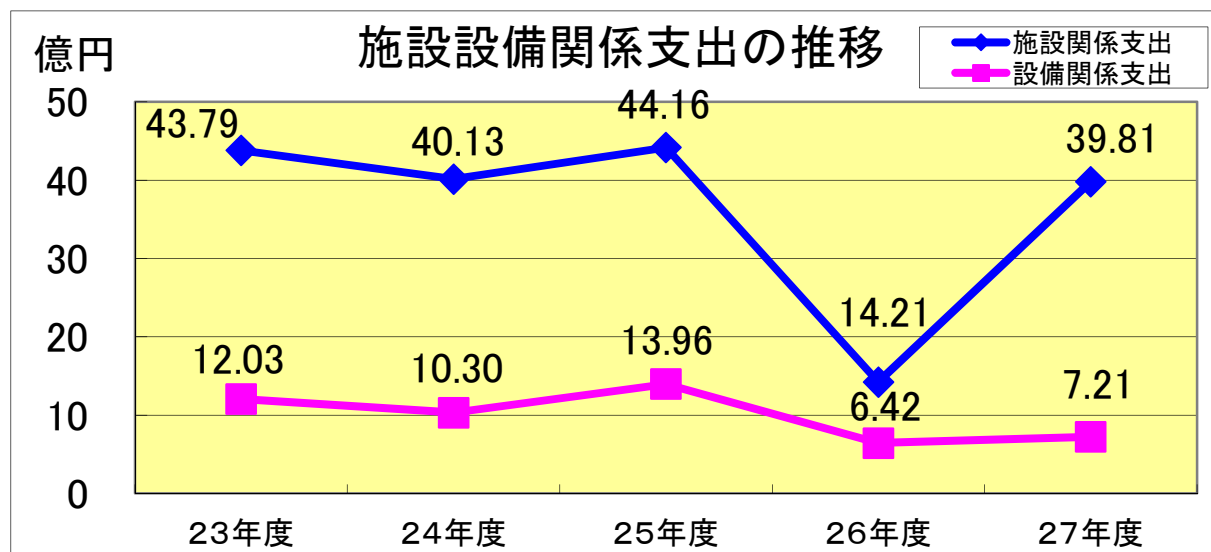
科 目			平成27年度予算	平成27年度決算	差 異	平成26年度決算	増 減
教育活動収支	事業活動収入の部	1. 学 生 生 徒 等 納 付 金	4,772,890	4,824,981	52,091	4,734,013	90,969
		2. 手 数 料	43,170	46,459	3,289	49,652	△3,193
		3. 寄 付 金	62,440	63,181	741	77,061	△13,879
		4. 経 常 費 等 補 助 金	980,760	954,011	△26,749	1,143,628	△189,617
		5. 付 随 事 業 収 入	151,140	172,509	21,369	167,458	5,051
		6. 医 療 収 入	20,148,440	19,994,808	△153,632	19,743,652	251,156
		7. 雑 収 入	604,480	717,919	113,439	921,905	△203,985
		教育活動収入計	26,763,320	26,773,870	10,550	26,837,368	△63,498
	事業活動支出の部	1. 人 件 費	12,558,770	12,241,889	△316,881	12,364,522	△122,633
		2. 教 育 研 究 経 費	10,841,110	10,289,151	△551,959	10,464,664	△175,513
		＜ 教 育 研 究 経 費 ＞	4,992,960	4,366,939	△626,021	4,545,388	△178,449
		＜ 医 療 経 費 ＞	5,848,150	5,922,212	74,062	5,919,276	2,936
		3. 管 理 経 費	2,792,640	2,705,912	△86,728	2,630,156	75,756
		4. 徴 収 不 能 額 等	8,930	7,802	△1,128	1,703	6,099
教育活動支出計	26,201,450	25,244,753	△956,697	25,461,045	△216,292		
教育活動収支差額			561,870	1,529,117	967,247	1,376,323	152,794
教育活動外収支	収入の部	1. 受 取 利 息 ・ 配 当 金	9,830	13,244	3,414	12,020	1,224
		2. その他の教育活動外収入	320,000	320,000	0	330,000	△10,000
		教育活動外収入計	329,830	333,244	3,414	342,020	△8,776
	支出の部	1. 借 入 金 等 利 息	31,670	31,669	△1	8,119	23,549
		2. その他の教育活動外支出	130	120	△10	0	120
		教育活動外支出計	31,800	31,788	△12	8,119	23,669
教育活動外収支差額			298,030	301,456	3,426	333,900	△32,444
経 常 収 支 差 額			859,900	1,830,572	970,672	1,710,223	120,349
特別収支	収入の部	1. 資 産 売 却 差 額	0	8,762	8,762	0	8,762
		2. そ の 他 の 特 別 収 入	42,620	58,041	15,421	57,196	846
		特 別 収 入 計	42,620	66,804	24,184	57,196	9,608
	支出の部	1. 資 産 処 分 差 額	34,070	32,452	△1,618	13,443	19,008
		2. そ の 他 の 特 別 支 出	3,330	3,326	△4	0	3,326
		特 別 支 出 計	37,400	35,778	△1,622	13,443	22,334
特 別 収 支 差 額			5,220	31,026	25,806	43,752	△12,726
[予 備 費]			[32,300]				
			208,780		△208,780		
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額			656,340	1,861,598	1,205,258	1,753,975	107,623
基 本 金 組 入 額 合 計			△1,361,260	△1,027,311	333,949	△784,705	△242,606
当 年 度 収 支 差 額			△704,920	834,287	1,539,207	969,270	△134,983
前 年 度 繰 越 収 支 差 額			△25,909,040	△25,647,673	261,367	△26,990,971	1,343,298
基 本 金 取 崩 額			395,830	823,738	427,908	374,028	449,710
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額			△26,218,130	△23,989,648	2,228,482	△25,647,673	1,658,025
(参 考)							
事 業 活 動 収 入 計			27,135,770	27,173,917	38,147	27,236,583	△62,666
事 業 活 動 支 出 計			26,479,430	25,312,319	△1,167,111	25,482,608	△170,289

※科目ごとに千円未満で四捨五入している為、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

※平成26年度決算は平成25年改正後の学校法人会計基準に基づく事業活動収支計算書に組み替えて表示している。

(4) グラフで見る財務状況

① 施設設備関係支出の推移



27年度…水道橋校舎本館西棟建設竣工ほか。市川総合病院でCT装置取得ほか。

26年度…学校法人で、本館西棟建設工事着手金ほか。市川総合病院で放射線画像管理システム取得。

25年度…水道橋校舎新館建設工事ほか移転計画関係支出、市川総合病院で厨房除害施設更新工事、千葉病院で医事会計システム取得ほか。

24年度…水道橋校舎本館改修工事ほか移転計画関係支出、市川総合病院で電源インフラ設備工事。

23年度…移転計画建設工事着手金ほか、水道橋校舎での備品等の取得など。

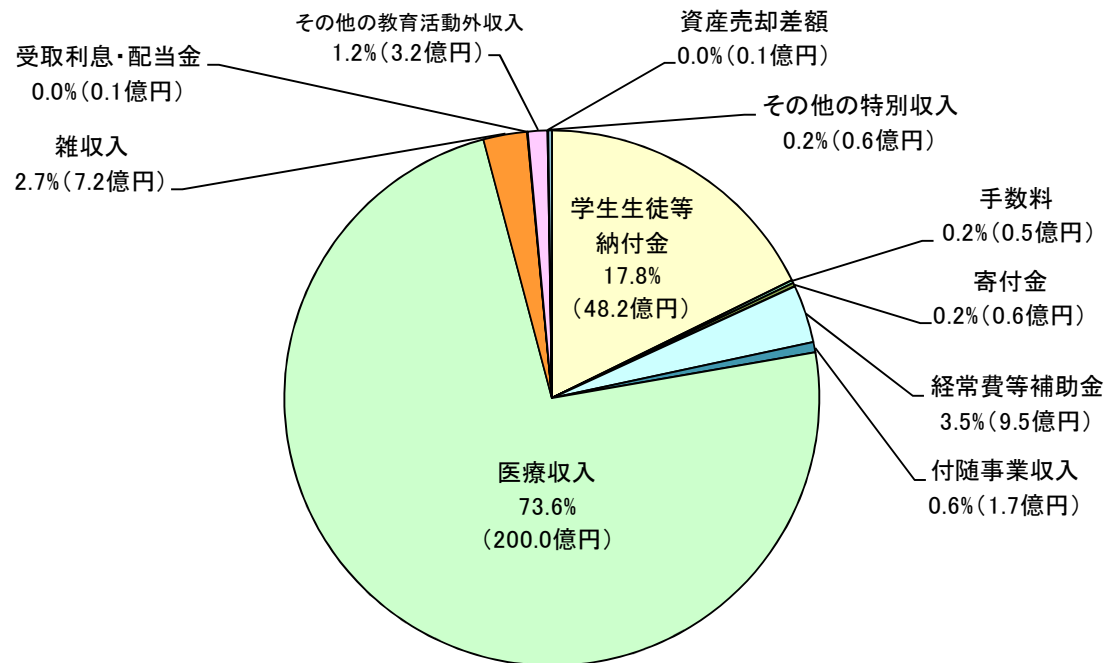
※主な現有施設の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額	摘要
東京都千代田区 (水道橋キャンパス)	校舎敷地	6,545㎡	9,500,396千円	9,500,396千円	学校法人本部、新館、本館(水道橋病院含む)、本館西棟、さいかち坂校舎、学生交流棟として利用している。 土地は収益事業として賃貸、建物は建物賃貸として利用している。
	校舎	35,047㎡	18,635,488千円	11,525,774千円	
	土地	1,137㎡	2,346,995千円	2,346,995千円	
	建物	10,790㎡	2,434,610千円	757,300千円	
千葉県千葉市美浜区 (千葉キャンパス)	校舎敷地	99,184㎡	1,863,395千円	1,863,395千円	千葉病院、歯科衛生士専門学校が利用している。 大学隣接土地。学校法人が管理している。 ㈱ファミリーマートへ賃貸している。
	校舎	54,475㎡	15,464,857千円	3,343,809千円	
	土地	3,300㎡	752,340千円	752,340千円	
	建物	218㎡	26,145千円	23,397千円	
千葉県市川市 (市川キャンパス)	校舎敷地	38,020㎡	194,485千円	194,485千円	市川総合病院として利用している。
	校舎	42,525㎡	20,632,355千円	9,094,725千円	
	土地	2,048㎡	531,632千円	531,632千円	市川宿舎として利用している。
	建物	3,964㎡	754,916千円	468,852千円	
	土地	763㎡	170,060千円	170,060千円	病院隣接土地。 ㈱ユニロビングへ賃貸している。 病院駐車場及び㈱マルエツへ賃貸している。
	土地	11,395㎡	1,183,620千円	1,183,620千円	
	土地	9,991㎡	52,640千円	52,640千円	
千葉県千葉市若葉区	土地	31,916㎡	988,576千円	988,576千円	運動場として利用している。
	建物	247㎡	91,505千円	10,465千円	
米国ニューヨーク州	土地	12,910㎡	37,984千円	37,984千円	歴史的建造物(野口英世旧別荘)として管理している。
	建物	134㎡	10千円	10千円	
総計					
	土地	217,208㎡	17,622,122千円	17,622,122千円	
	建物	147,399㎡	58,039,886千円	25,224,332千円	

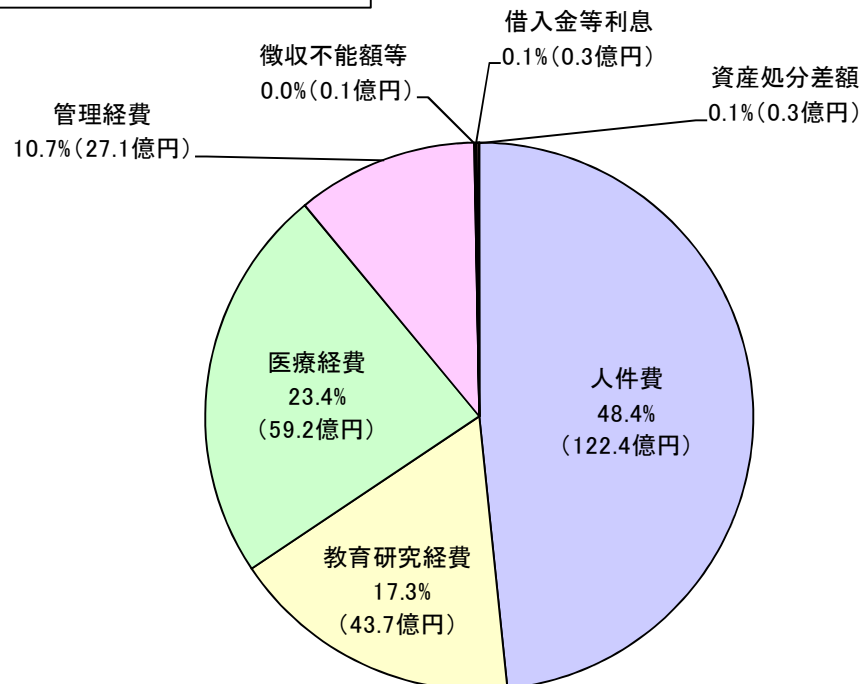
※内訳ごとに単位未満を四捨五入している為、各項目の計と総計が一致しない場合がある。

②事業活動収支科目構成

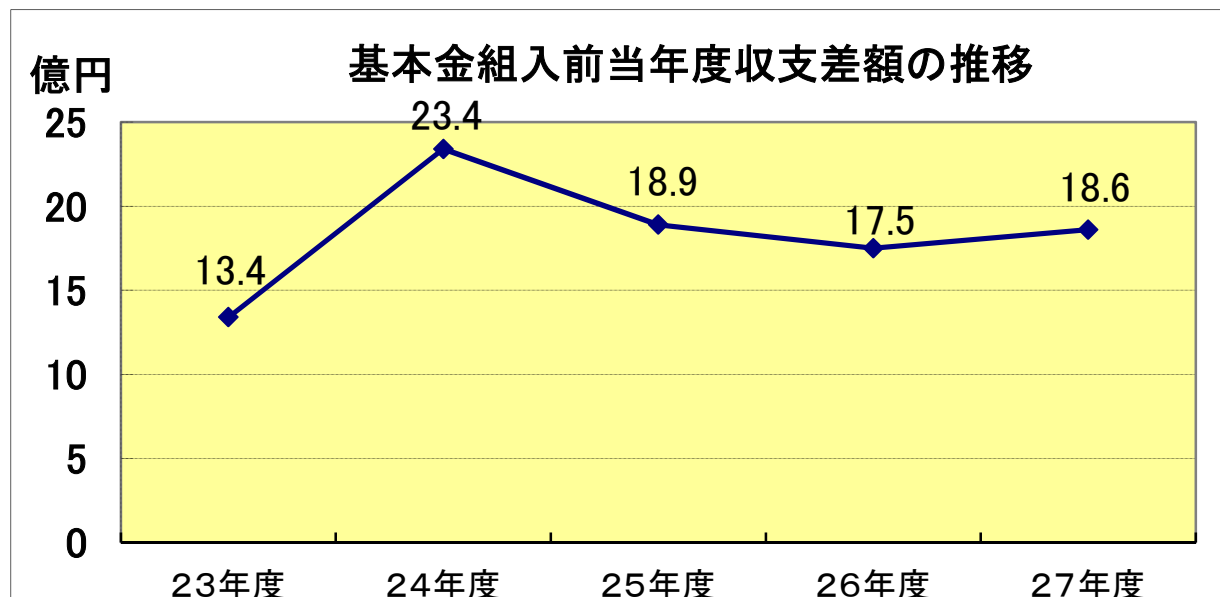
事業活動収入計 271.7億円



事業活動支出計 253.1億円

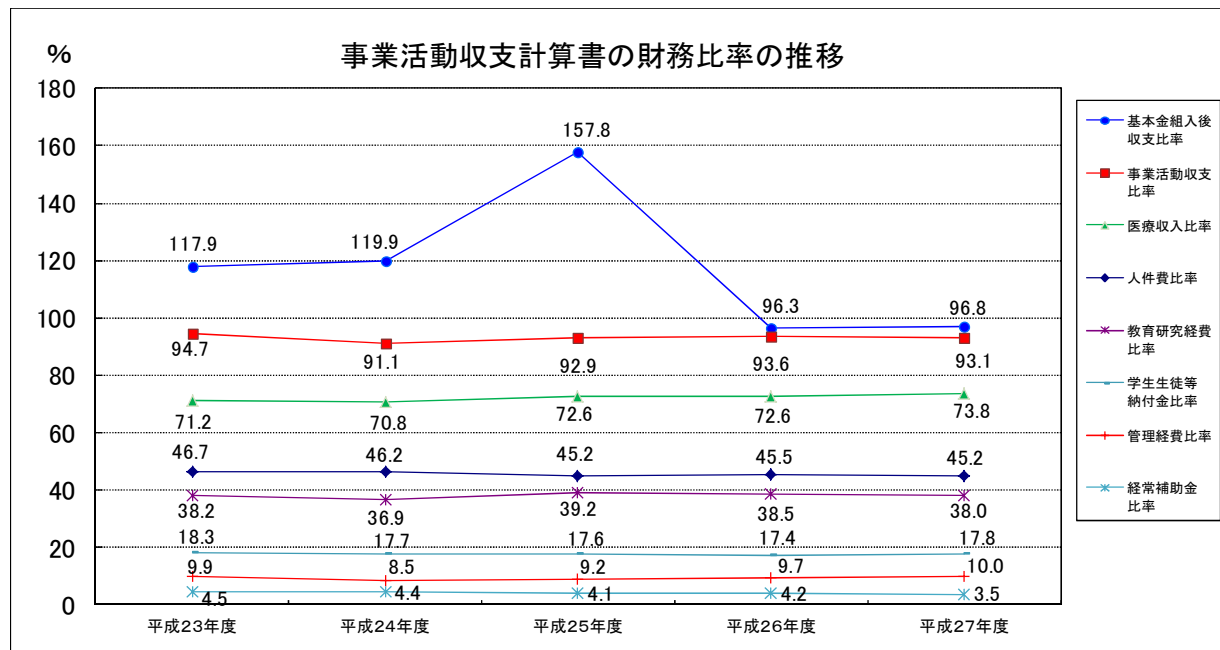


③基本金組入前当年度収支差額の推移



※平成26年度以前は帰属収支差額（帰属収支－消費支出）を表している。

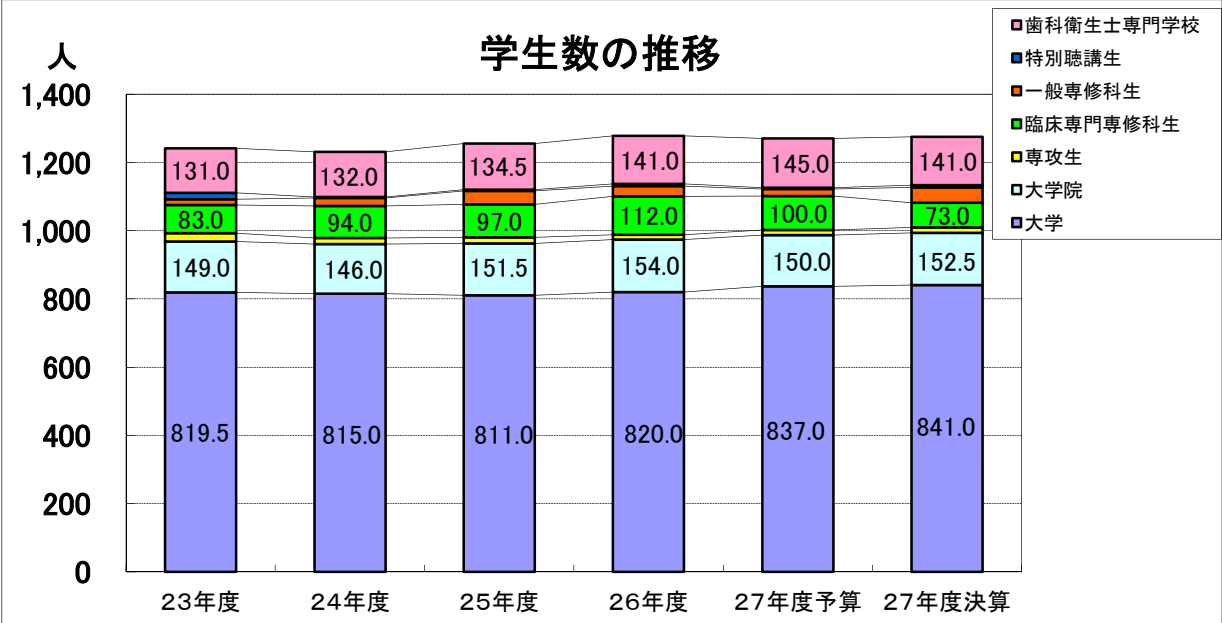
④財務趨勢比率の推移



※平成26年度以前は事業活動収支計算書に組み替えて算出した比率である。

基本金組入後収支比率は平成25年度は水道橋校舎新館完成による資産の取得などで157.8%となったが、平成26・27年度は水道橋校舎本館西棟の完成などがあるものの比率は落ち着いている。医療収入比率は、各年度での他の収入の臨時的増などで多少の増減があるが、医療収入の増加に伴い年々増加傾向にある。

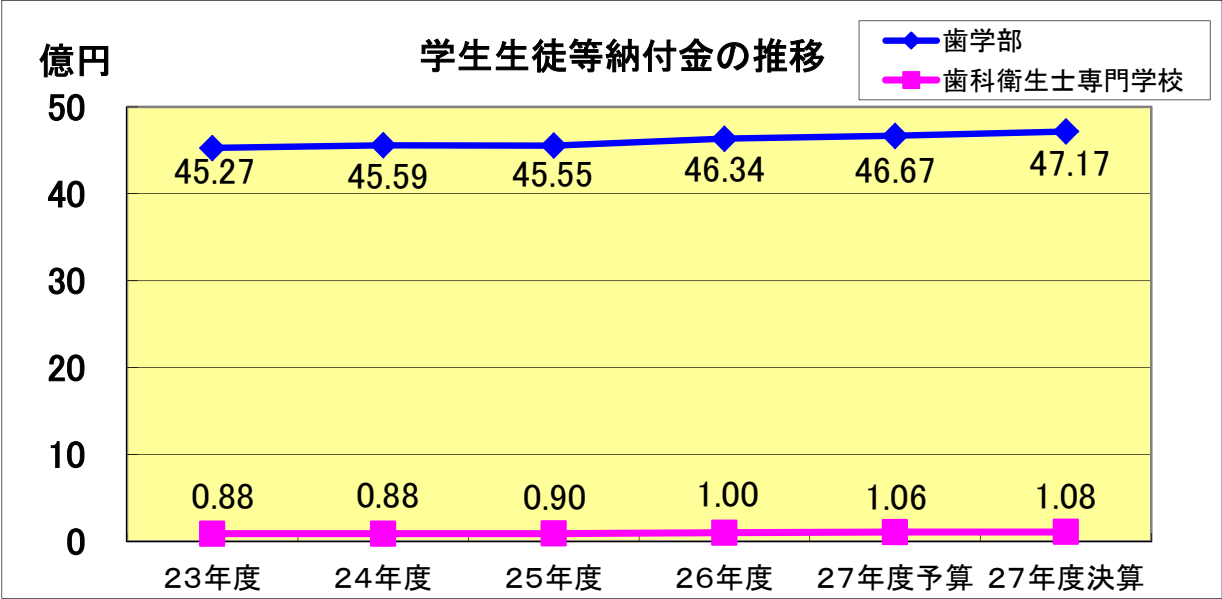
⑤学生数及び学生生徒等納付金の推移



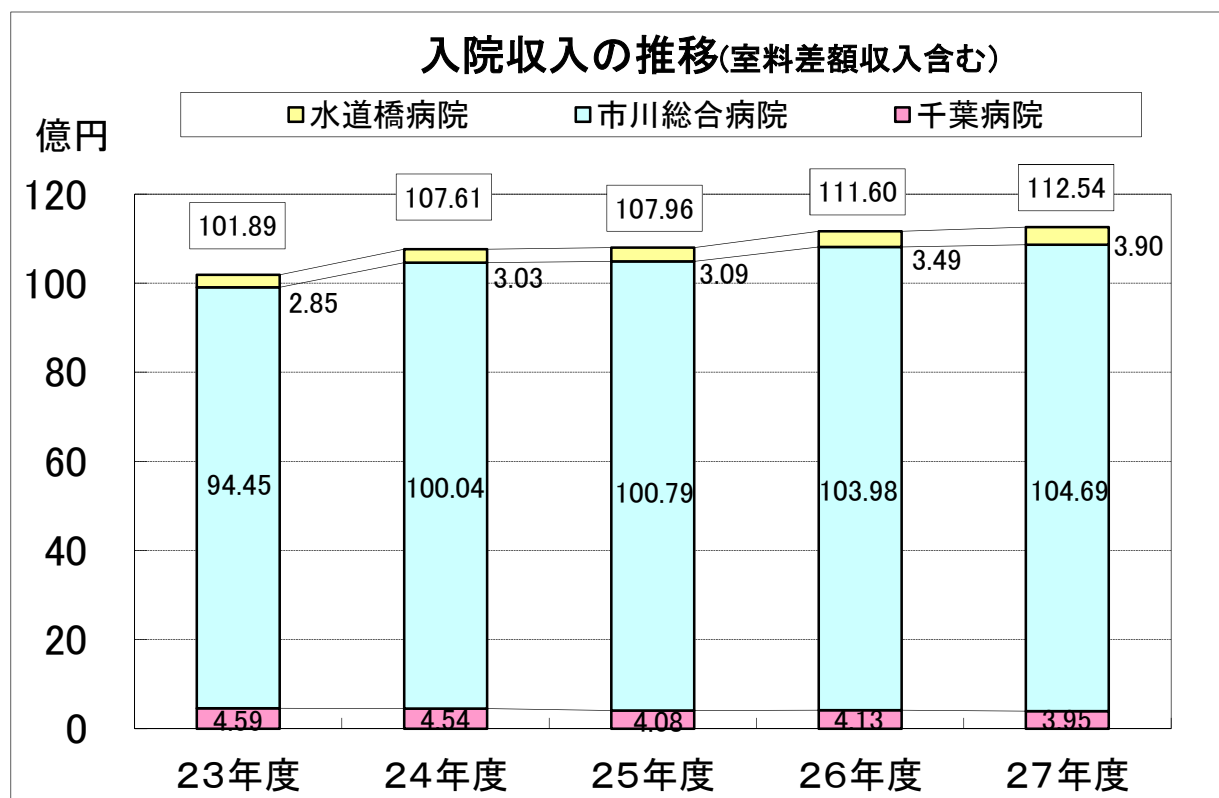
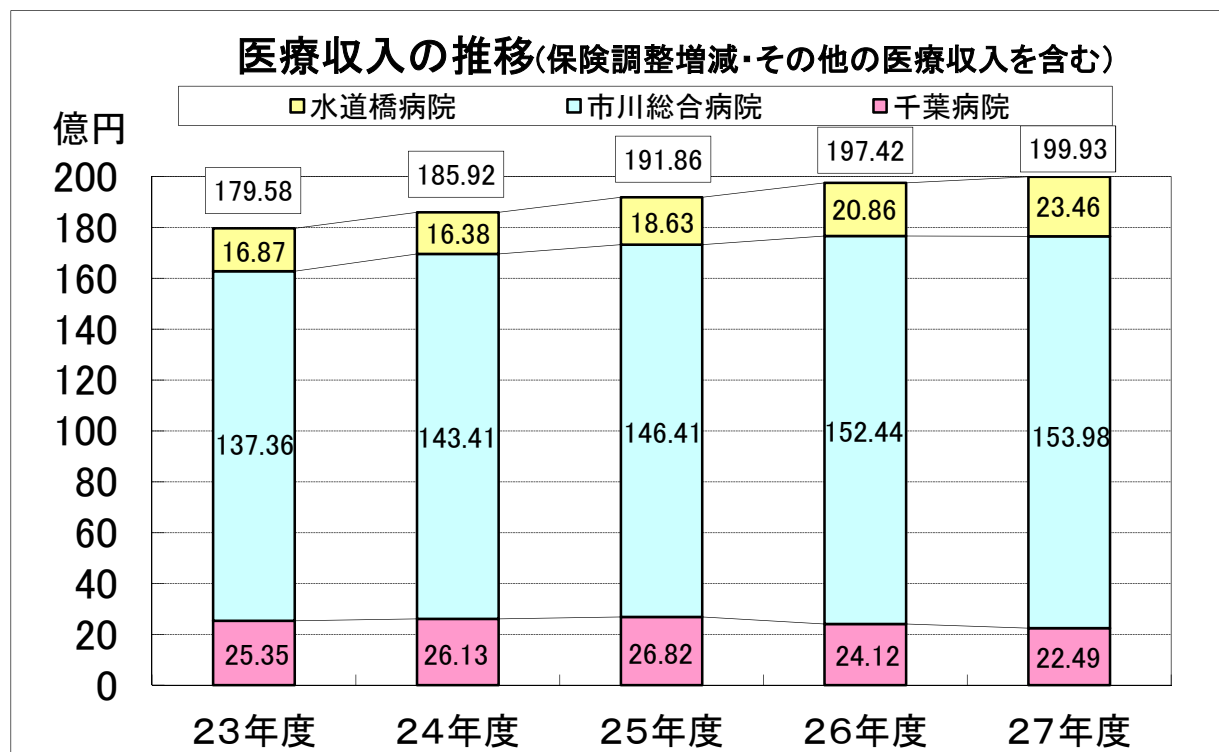
(人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度予算	27年度決算
大学	819.5	815.0	811.0	820.0	837.0	841.0
大学院	149.0	146.0	151.5	154.0	150.0	152.5
専攻生	24.0	18.0	18.0	14.5	15.0	16.0
臨床専門専修科生	83.0	94.0	97.0	112.0	100.0	73.0
一般専修科生	17.3	23.3	39.3	30.6	20.0	44.6
特別聴講生	18.0	3.0	4.0	6.0	4.0	7.0
歯科衛生士専門学校	131.0	132.0	134.5	141.0	145.0	141.0
計	1,241.8	1,231.3	1,255.3	1,278.1	1,271.0	1,275.1

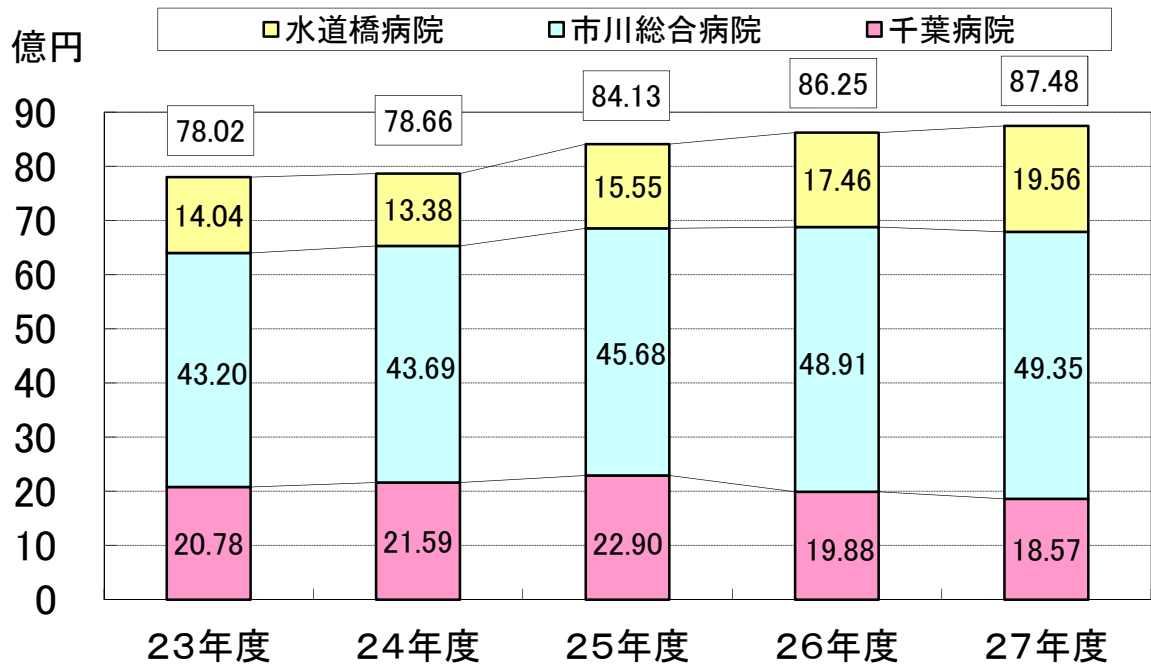
※ここでの学生数は、学生生徒等納付金から出したものであり、学校基本調査の値とは異なる。



⑥附属病院医療収入推移グラフ（歯科衛生士専門学校を除く）



外来収入の推移



水道橋病院…入院収入・外来収入ともに患者数・診療単価の増で前年を上回った。

市川総合病院…入院収入・外来収入ともに診療単価の増で前年を上回った。

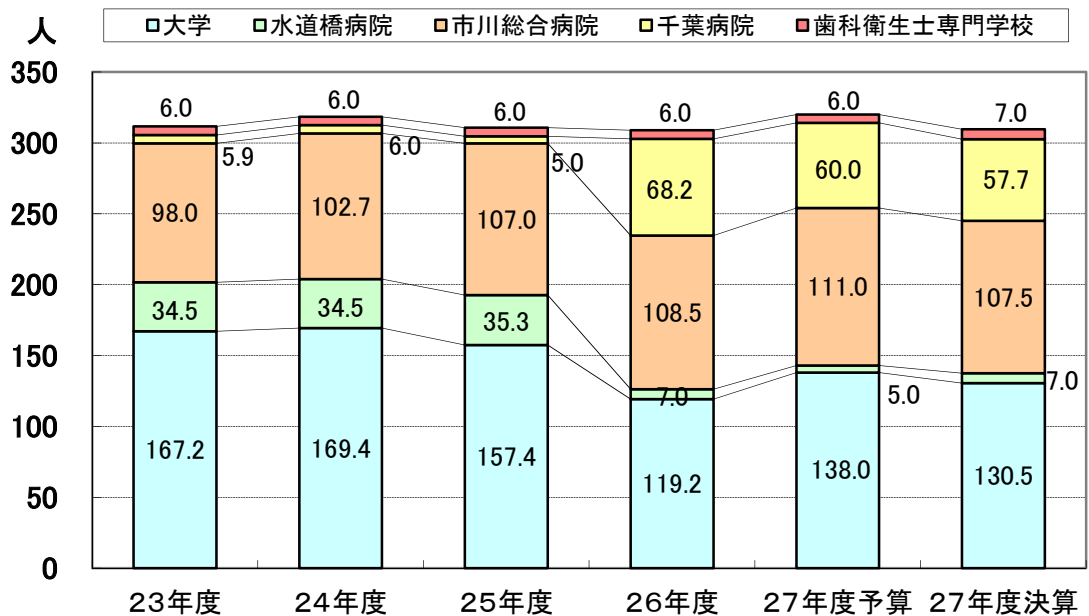
千葉病院…入院収入・外来収入ともに患者数の減で前年を下回った。

⑦教職員数及び人件費（事業活動支出）の推移

※水道橋病院教員は、26年度より病院の教員人件費対象者を除き大学に含む。

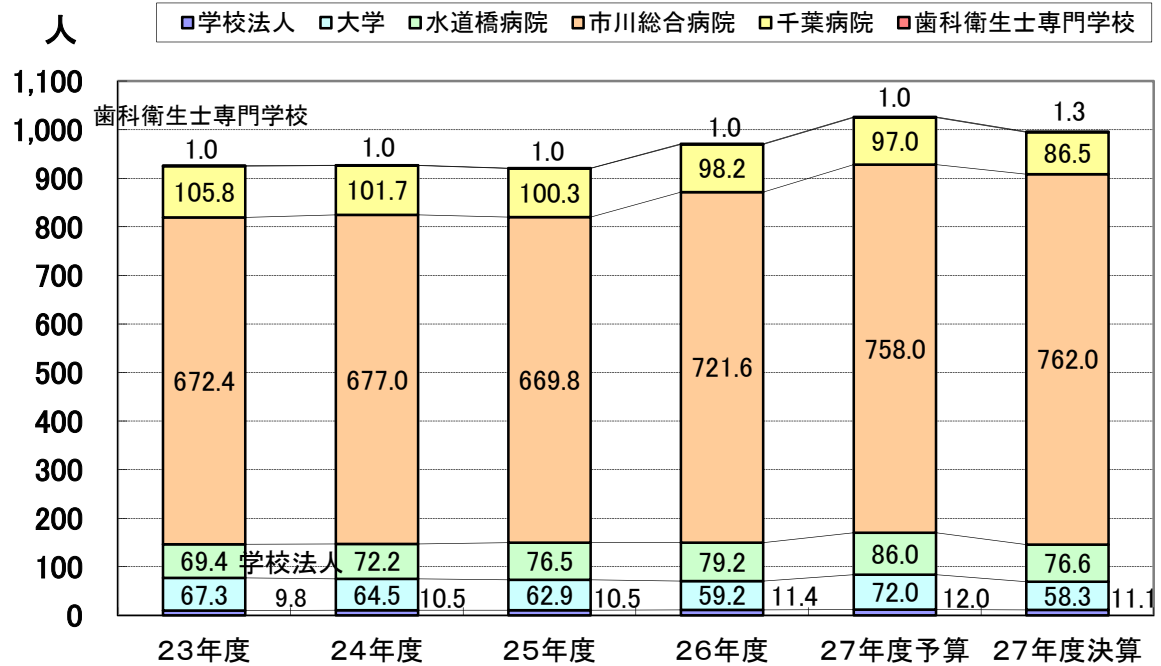
教員数の推移

※充足人員で表示



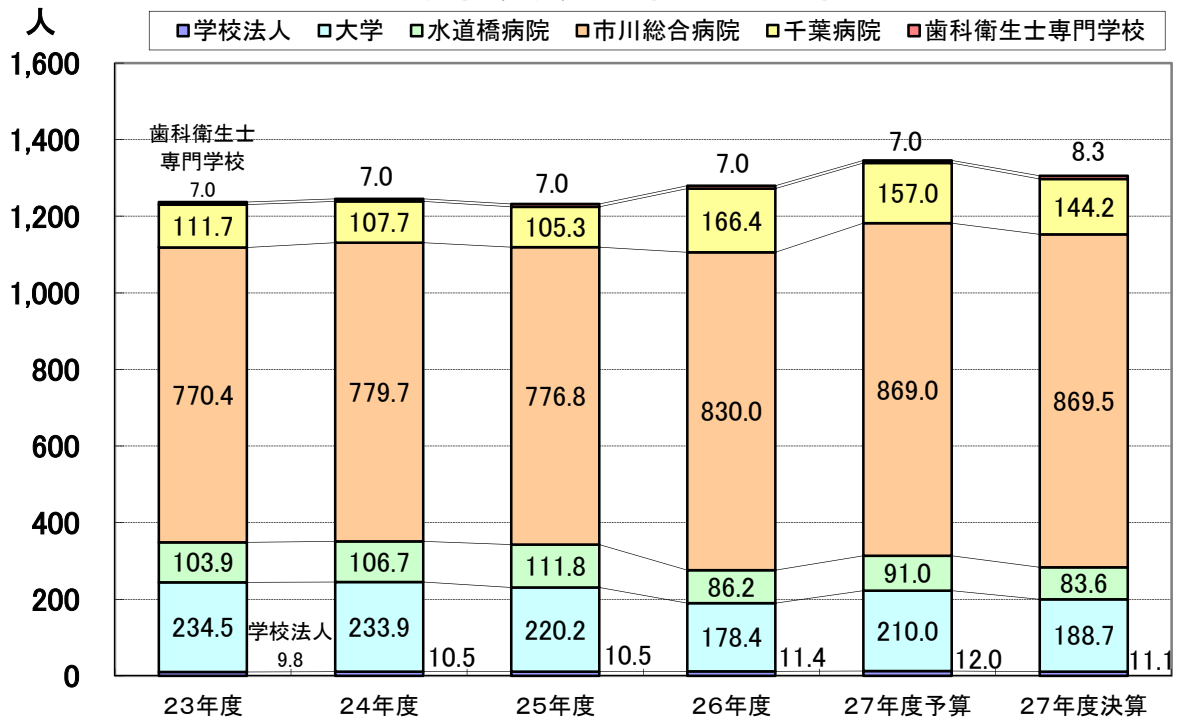
職員数の推移

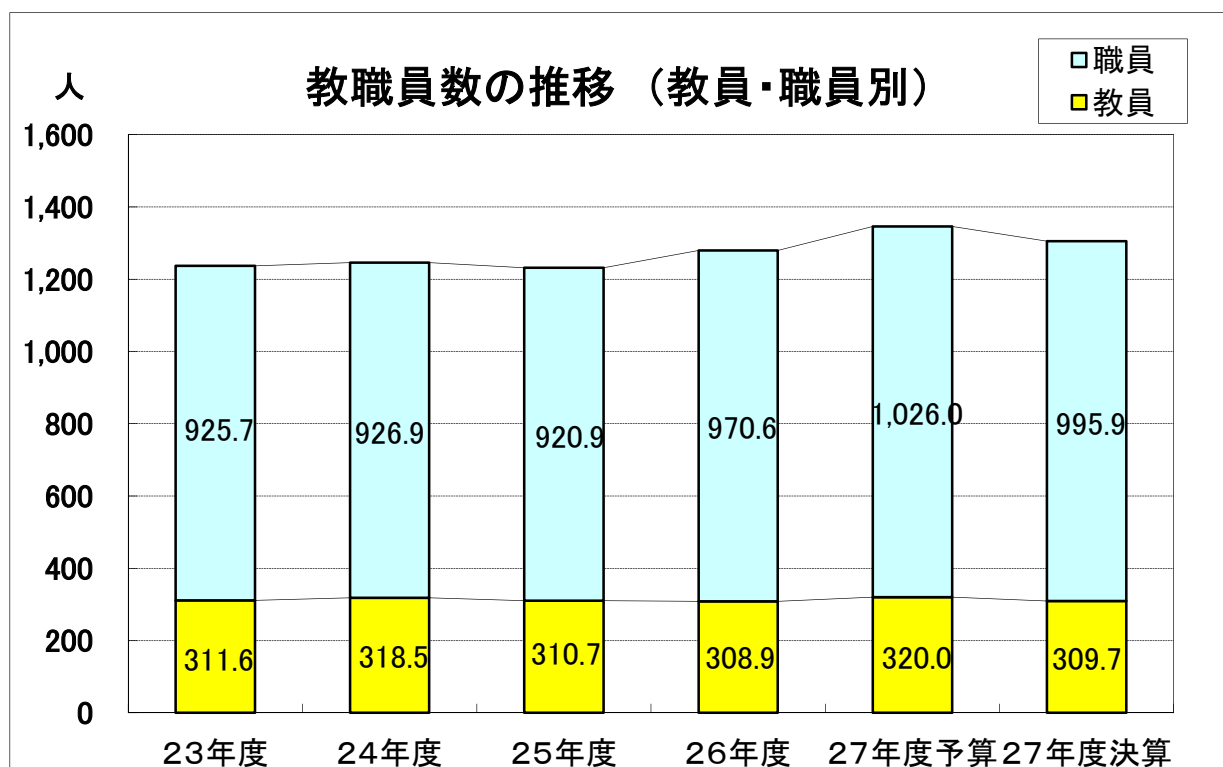
※充足人員で表示



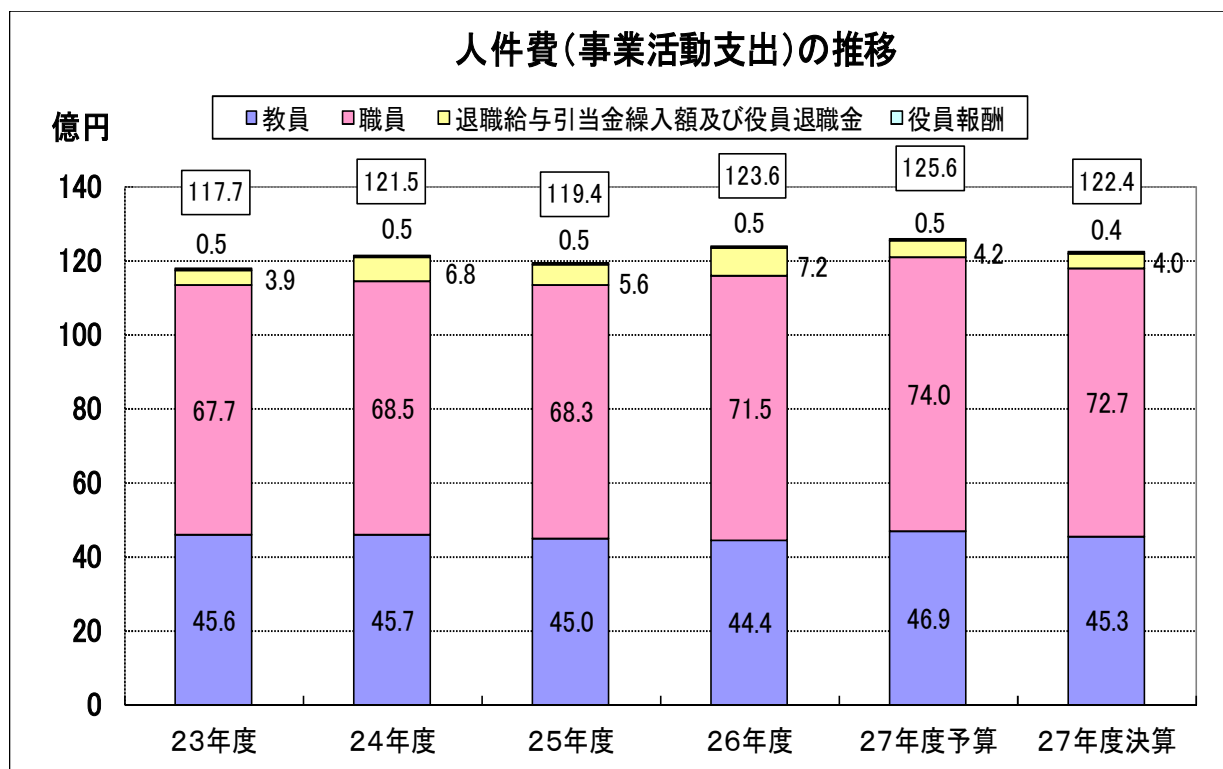
教職員数の推移（施設別）

※充足人員で表示



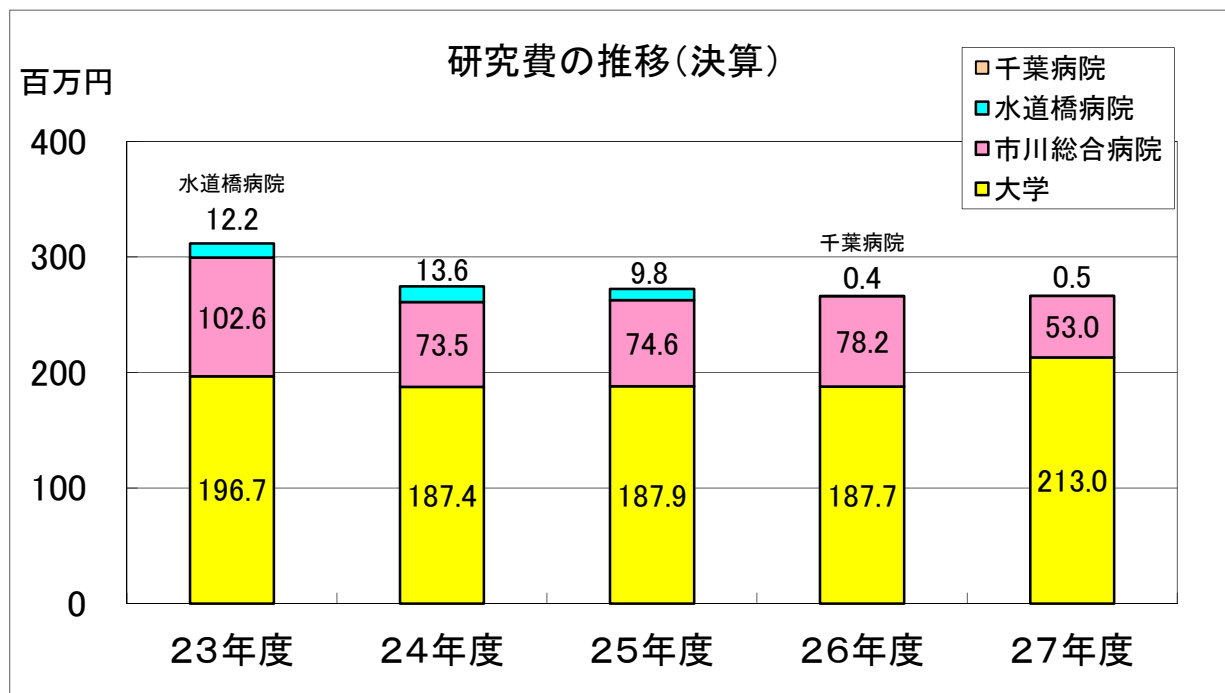
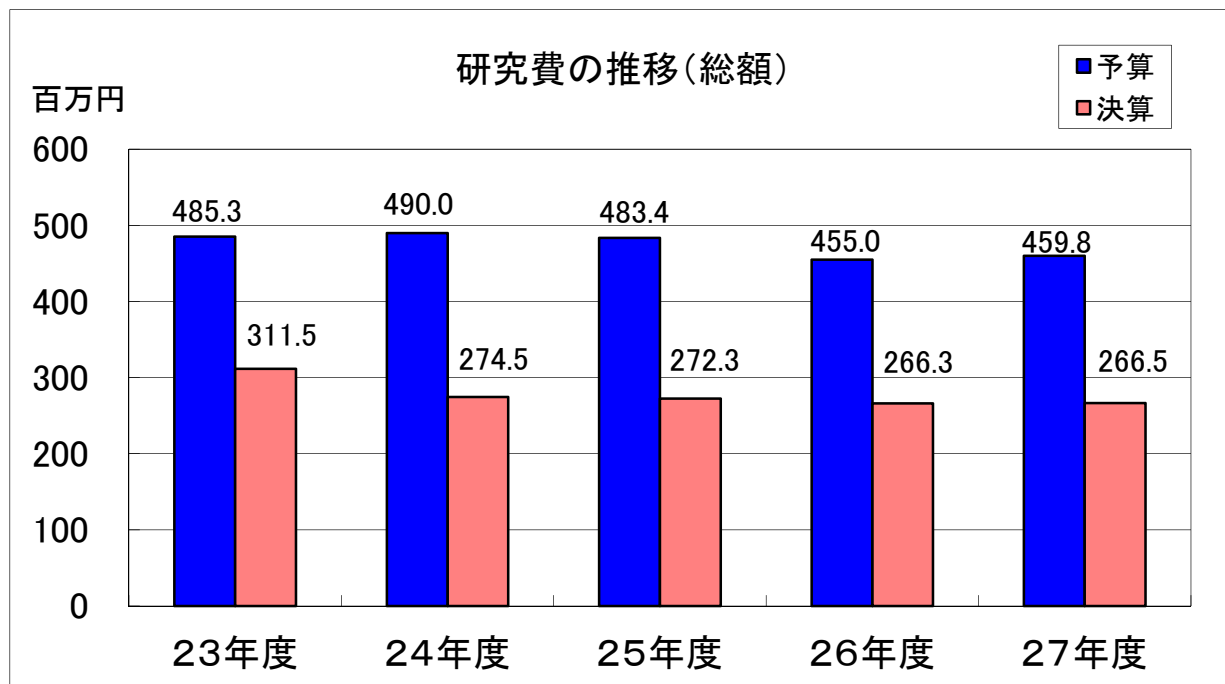


教職員数のグラフは年度ごとの教職員の充足人員を表している。市川総合病院の医療職員が増加しており、それに伴い職員人件費は増加している。

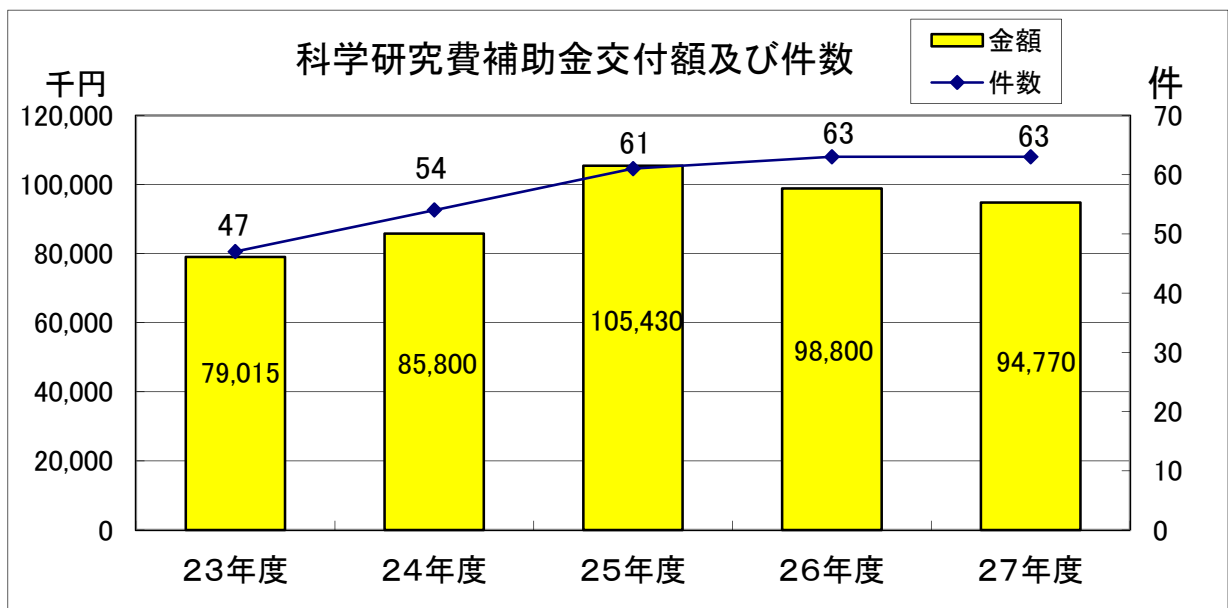
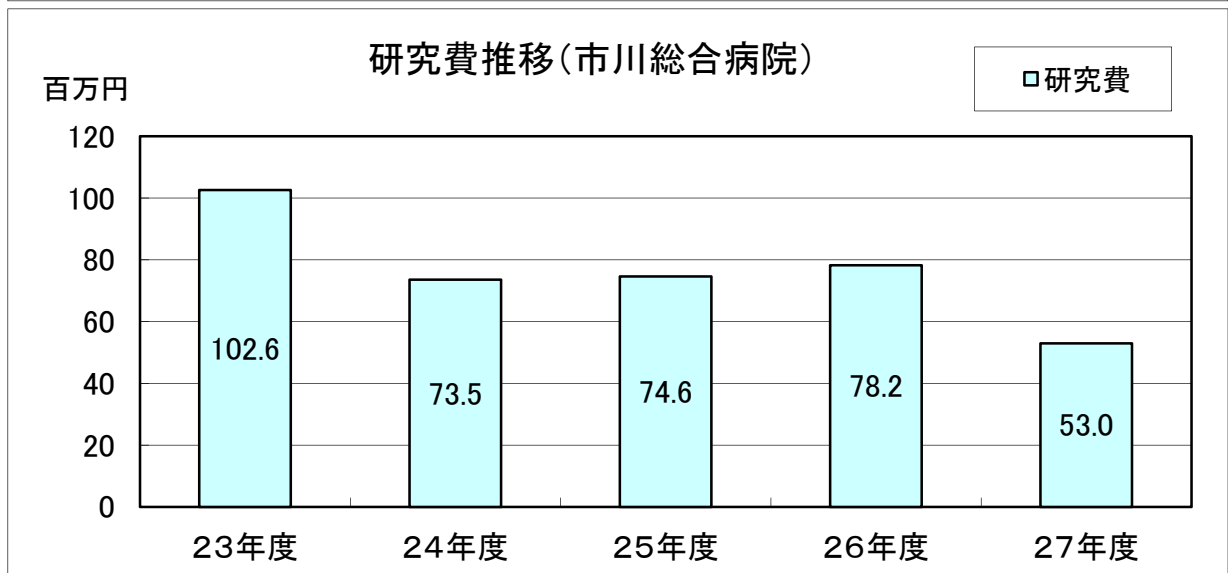
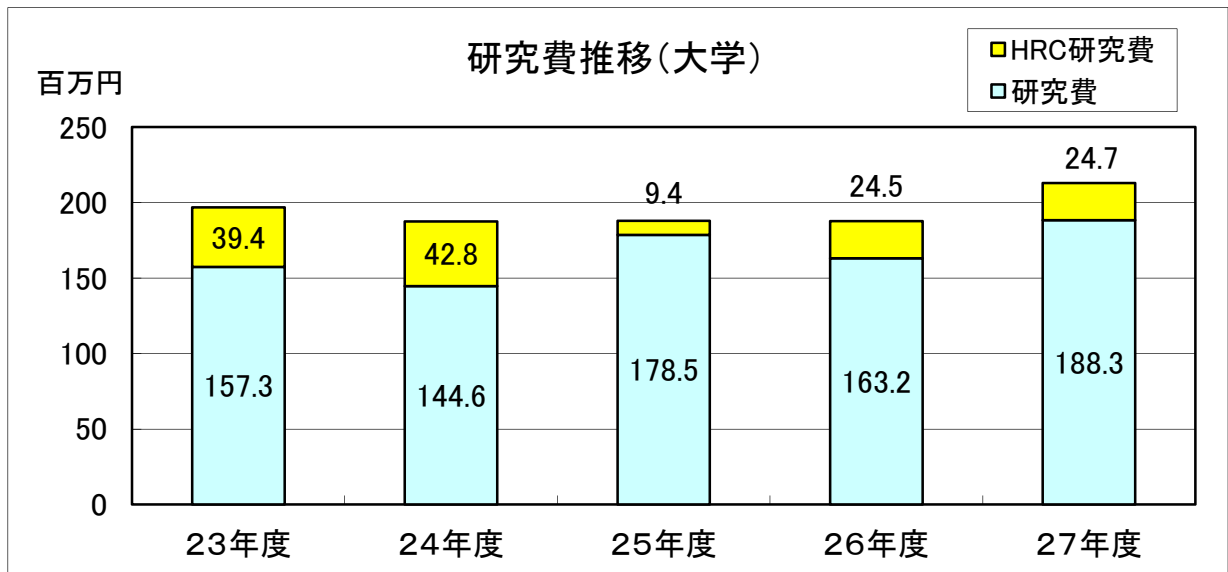


23年度は臨時的な掛金外退職交付金があり退職給与引当金繰入額が減少している。

⑧研究費の推移



※ 25年度までは大学（千葉病院分を含む）・市川総合病院・水道橋病院、26年度以降は大学（水道橋病院分を含む）・市川総合病院・千葉病院に分かれている。



(5) 収益事業会計

1. 営業損益の部

(1) 営業収益

不動産賃貸収入のうち建物賃貸収入は、テナント退去により予算より600万円減の3億8,000万円となった。土地賃貸収入は、予算と同額の2億4,600万円となった。

(2) 営業費用

一般管理費は、8,200万円、租税公課は、消費税の減などで対予算減となり、1億800万円、減価償却費は、予算と同額の4,400万円となり、営業費用全体で対予算比900万円の減となった。

2. 営業外損益の部

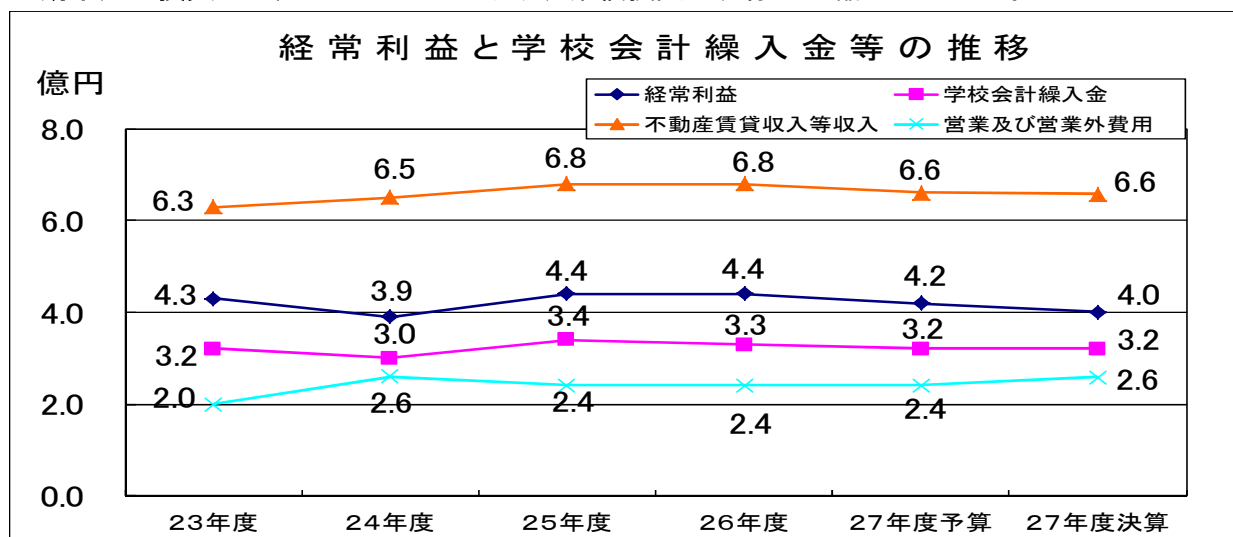
(1) 営業外収益

雑収入は、既存ビルテナントの光熱水費受取分を計上した。

(2) 営業外費用

雑損失に、テナント立退き時の費用を計上した。

以上により**経常利益**は、3億9,900万円となり、予算より2,100万円減となった。**学校会計繰入金**3億2,000万円を学校法人会計へ繰入し、**法人税・事業税**を6,800万円計上した。以上の結果により、**当期利益**は、900万円となり、**前期繰越損失**を加算すると、**当期末処理損失**は3,700万円となり、累積損失は、徐々に縮小している。



収益事業損益計算　－予算との比較－

(単位:百万円)

科 目	平成27年度予算	平成27年度決算	差 異	平成26年度決算	増 減
1. 営 業 損 益 の 部					
(1)営 業 収 益	632	626	△6	641	△ 15
不 動 産 賃 貸 収 入	632	626	△6	641	△ 15
(建 物 賃 貸 収 入)	(386)	(380)	(△6)	(392)	(△ 12)
(土 地 賃 貸 収 入)	(246)	(246)	(0)	(249)	(△ 3)
(2)営 業 費 用	243	234	△9	235	△1
一 般 管 理 費	83	82	△1	79	3
租 税 公 課	116	108	△8	108	0
減 価 償 却 費	44	44	△0	48	△4
営 業 利 益 (1)－(2)	389	392	3	406	△ 14
2. 営 業 外 損 益 の 部					
(1)営 業 外 収 益	32	32	△0	38	△ 6
雑 収 入	32	32	△0	38	△ 6
(2)営 業 外 費 用	0	25	25	0	25
雑 損 失	0	25	25	0	25
経 常 利 益	421	399	△ 21	444	△ 45
特 別 損 失	0	2	2	0	2
学校会計繰入前当期利益	421	398	△ 23	444	△ 46
学 校 会 計 繰 入 金	320	320	0	330	△ 10
税 引 前 当 期 利 益	101	78	△23	114	△ 36
法 人 税 ・ 事 業 税	68	68	0	95	△ 27
当 期 利 益	33	9	△23	19	△ 10
前 期 繰 越 損 失	48	46	△ 2	65	△19
当 期 末 処 理 損 失	15	37	21	46	△9